

2017—2026

交野市生涯学習基本計画



みんなが学び輝くまち かたの



平成 29 年 3 月
交野市教育委員会

は じ め に

近年、わが国では少子高齢化や核家族化、価値観やライフスタイルの多様化などの影響を受けて、人間関係の希薄化が懸念されています。また、平成 23 年に発生した東日本大震災を契機に、人と人との絆や地域のつながりの重要性が再認識されています。

このように豊かな人間関係の醸成が求められるなか、生涯学習が果たす役割は極めて重要となっています。

本市では、平成 3 年の「交野市生涯学習基本構想」の策定や、その後の総合体育施設や倉治図書館の設置など、様々な生涯学習施策に取り組んできました。また平成 28 年には「交野市教育大綱」を策定し、具体的な教育振興のための取り組みとして、この「交野市生涯学習基本計画」の策定が掲げられました。

本計画をもとに市民一人ひとりの生きがいや健康づくりにとどまらず、仲間との学び合いや支え合いから「知の循環型社会」を育んで参りたいと考えておりますので、皆様のより一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、熱心にご審議いただきました交野市生涯学習基本計画推進委員会の皆様をはじめ、市民意識調査及び生涯学習活動関係団体アンケートにおいてご協力いただきました多くの市民の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

平成 29 年 3 月

交野市教育委員会

目次

第1章 計画の策定にあたって	1
1. 生涯学習とは	1
2. 計画策定の趣旨	2
3. 生涯学習政策の動向	3
4. 計画の位置づけ	8
5. 計画の期間	9
6. 計画の策定体制	9
第2章 交野市の生涯学習を取り巻く現状と課題	12
1. 市の概況	12
2. 市の人口及び世帯などの状況	13
3. 市の施設や活動団体の状況	14
4. 市民意識調査結果からみる生涯学習・スポーツの状況	17
5. 団体アンケート結果からみる生涯学習・スポーツの状況	28
6. ワークショップからみる生涯学習・スポーツの状況	31
7. 課題のまとめ	36
第3章 計画の基本的な考え方	41
1. 基本理念	41
2. 基本方針	41
3. 施策体系	44
第4章 計画の推進施策	45
1. 誰もが希望と安心をもって学べる環境の創出	45
2. 情（こころ）を育み、確かな学びの実感	49
3. 誰もが集い、地域のみんなで子どもたちを支える学校の実現	52
4. 自然と歴史を通じたまちの発見	56
5. 生涯を通じた文化の振興	58
6. 生涯を通じたスポーツの振興	60
第5章 計画の推進体制と進捗管理	65
資料編	67

第1章 計画の策定にあたって

1. 生涯学習とは

「生涯学習」とは、「人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づいて行うことを基本とし、必要に応じて自己に適した手段・方法を自ら選んで、生涯を通じて行う学習」と定義され、具体的には平成2年の中央教育審議会答申にて

- ① 生活の向上、職業上の能力の向上や、自己の実現をめざし、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであること。
- ② 必要に応じ、可能な限り自己に適した手段及び方法を自ら選びながら生涯を通じて行うものであること。
- ③ 学校や社会の中で意図的、組織的な学習活動として行われるだけでなく、人々のスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション※活動、ボランティア活動などの中でも行われるものであること。の3つと定義されております。

したがって学校教育や家庭教育、社会での学習機会に限らず、スポーツ、文化活動、趣味、地域活動、ボランティア活動、職場での学習など、わたしたちの暮らしに関わるあらゆる領域での学習活動を表します。

平成18年12月に改正された「教育基本法」第3条では、生涯学習の理念を「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に活かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と規定しています。

近年では、国際化、高度情報化、科学技術の急速な進展のほか、少子高齢化の進行などにより、人々の価値観も多様化し、市民の学習に対する意識や活動はより広範・多岐にわたるものとなっています。

まちの安全、子育て、高齢社会、環境問題などを抱えるわたしたちの地域では、人々のつながりの再生と「自分たちのまちは自分たちの手で」という自治意識をもった自立が求められています。

「生涯学習」は、市民一人ひとりの生きがいや健康づくりに留まらず、文化・スポーツ・ボランティア活動などを通じた仲間や他人との学び合い・支え合いから広がりや循環が生まれてきます。一人ではできなかったことへの取り組みは、まちづくりの大きな力「知の循環型社会※」につながることを期待されます。

文中の（※）印の用語は、巻末の資料編に用語解説を掲載しています。

2. 計画策定の趣旨

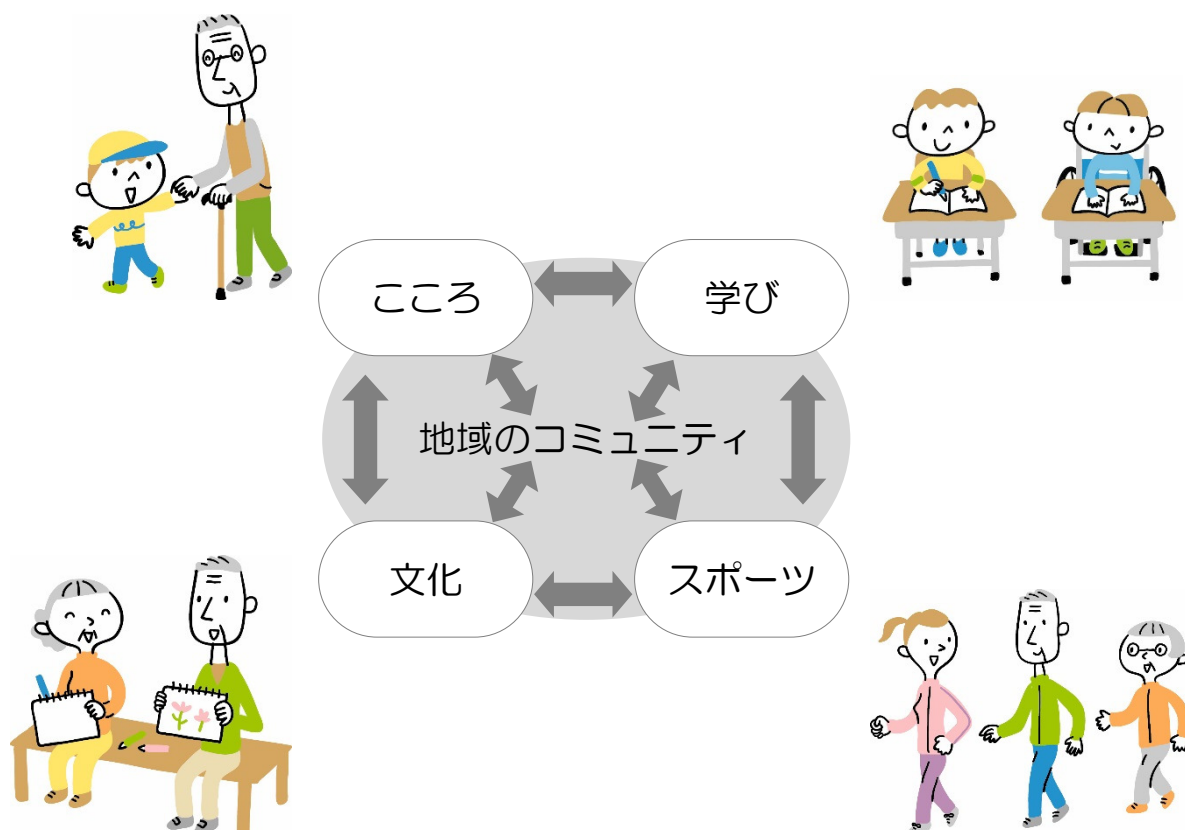
本市は、平成3年4月にライフステージ※に応じた「学び」の将来目標となる「交野市生涯学習基本構想」を策定し、生涯学習推進にかかる様々な施策に取り組んできました。

その後、少子高齢化社会の到来、高度な情報技術の発展など、社会情勢が急激に変化し、市民の価値観、生活様式の多様化、地域社会、家庭の在り方など様々な面に影響を与えました。

このように社会の多様化する課題に対して、平成23年4月に「交野市第4次総合計画」が策定され、基本理念を「あじわい・なりわい・にぎわい “みんな活※” でわいわいと “かたのサイズ※” なまち暮らし」とし、行政の力だけではなく、市民一人ひとりの個性や多様性が尊重され、市民が地域の担い手として活躍できること、またそのつながりによる力を活用していくことが重要とされました。

また、平成28年1月に「交野市教育大綱」が策定され、教育理念「『教育百年の森』の実現—生きる力※を養い多様性に富んだ人材の育成—」をめざすため、6つの基本方針を掲げ、具体的な教育の振興のための取り組みとして「交野市生涯学習基本計画」（以下「本計画」という。）を策定することとしました。なお本計画は、本市におけるスポーツ振興のための取り組みとしてスポーツ推進計画を兼ねるものとします。

本計画は、本市を取り巻く社会情勢の変化に対応しつつ、生涯学習における多様な市民ニーズへの支援策とともに、市民一人ひとりの学習の成果が地域社会に活かされる「知の循環型社会」に向け、市が取り組むべき施策を体系的にすすめるための計画です。



3. 生涯学習政策の動向

(1) 国の動向

① 中央教育審議会及び臨時教育審議会

昭和 56 年の中央教育審議会生涯学習分科会の答申「生涯教育について」では、生涯学習の定義を「各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とする学習活動」としました。また、昭和 59 年から昭和 62 年にかけての臨時教育審議会の答申では、教育改革の基本理念の一つを「生涯学習体系への移行」としました。

② 生涯学習審議会

平成 2 年に「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律（生涯学習振興法）」が制定され、生涯学習審議会が発足しました。

生涯学習審議会では「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」（平成 4 年）、「地域における生涯学習機会の充実方策について」（平成 8 年）、「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について」（平成 10 年）、「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ」及び「学習の成果を幅広く生かす」（平成 11 年）、「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について」（平成 12 年）などの答申が行われました。

③ 文化芸術振興基本法の制定と基本方針の策定

国民の心豊かな生活や活力ある社会の実現のためには、文化を振興することが極めて重要であるとし、平成 13 年に「文化芸術振興基本法」が制定されました。

平成 14 年にはこの法律に基づき、「文化芸術の振興に関する基本的な方針」が閣議決定され、はじめて国における文化振興の方向性が示されました。その後、平成 19 年、平成 23 年に 2 度の方針の策定を踏まえ、平成 27 年に第 4 次基本方針が策定されました。第 4 次基本方針では、第 3 次基本方針策定以後の社会情勢の変化として、地方創生※、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピック、東日本大震災などを踏まえ、新たな文化政策方針と文化芸術立国の姿を示しています。

■ 「文化芸術の振興に関する基本的な方針－文化芸術資源で未来をつくる－（第 4 次）」：基本的視点

- 人的資源の源泉
- 公共財・社会包摂の機能・公的支援の必要性
- 国際的な文化交流の必要性
- 社会への波及効果
- 多様な主体による活動
- 地方公共団体における文化施策の展開
- 政策評価の必要性

④ 教育基本法の改正

平成 18 年 12 月に「教育基本法」が改正され、新しい時代の教育理念を明らかにするとともに、生涯学習の理念（第3条）、家庭教育（第 10 条）、幼児期の教育（第 11 条）、社会教育（第 12 条）、学校・家庭・地域の連携協力（第 13 条）などについて定められました。

⑤ 社会教育関連三法の改正

平成 20 年 6 月、平成 18 年の「教育基本法」の改正を受けて、「社会教育法」「図書館法」「博物館法」が改正されました。「社会教育法」の改正では、社会教育行政は国民に必要な学習の機会の提供や奨励を行い生涯学習振興に寄与することや、学校や家庭、地域住民などの連携・協力をすすめることが、社会教育を推進する国・地方公共団体の任務として位置づけられました。

⑥ 教育振興基本計画の策定

平成 20 年 7 月、「教育基本法」第 17 条第 1 項に基づく初めての計画として、「教育振興基本計画」が閣議決定され、平成 25 年 6 月には、「第 2 期教育振興基本計画」（対象期間：平成 25 年度～平成 29 年度）が閣議決定されました。

「第 2 期教育振興基本計画」においては、「①社会を生き抜く力の養成」「②未来への飛躍を実現する人材の養成」「③学びのセーフティネット※の構築」「④絆づくりと活力あるコミュニティの形成」が基本的方向性として位置づけられました。

⑦ 中央教育審議会における議論の整理

平成 23 年 5 月に発足した第 6 期中央教育審議会生涯学習分科会において、平成 20 年 2 月の第 4 期中央教育審議会答申の提言内容や、平成 23 年 1 月に整理された内容などとともに、東日本大震災などの社会状況の著しい変化も踏まえた今後の生涯学習・社会教育の振興に関する具体的方策について、平成 25 年 1 月にとりまとめが行われました。

また、平成 27 年 12 月 21 日の中央教育審議会第 104 回総会では「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働※の在り方と今後の推進方策について」のとりまとめが行われ、今後の方向性として「地域学校協働活動※」の積極的な推進や「地域学校協働本部※」への発展が提言されました。

■第 6 期中央教育審議会生涯学習分科会：生涯学習・社会教育振興の具体的方策

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習活動や体制づくりの推進○現代的・社会的課題に対応した学習機会及びライフステージに応じた学習機会の充実○社会生活を円滑に営む上で困難を有する者への学習機会の充実○学習の質保証・向上と学習成果の評価・活用の推進○生涯学習・社会教育の推進を支える基盤の整備 |
|--|

⑧ スポーツ基本法の制定とスポーツ基本計画の策定

平成23年6月、「スポーツ振興法」が全面的に改正され、新しいスポーツ政策のよりどころとなる「スポーツ基本法」が制定されました。この法律は、スポーツに関する基本理念を定め、国・地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力などを明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めています。また、平成24年3月、「スポーツ基本法」に基づき、「スポーツ基本計画」が策定され、今後の我が国のスポーツ施策の具体的な方向性が示されました。

■スポーツ基本計画

【今後10年間における基本的な政策課題】

- 年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができるスポーツ環境を整備

【今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策】

- 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
- 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等のライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
- 国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備
- オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進
- ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上
- スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進

⑨ スポーツ庁の設置

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催の決定を契機に、スポーツ行政を総合的に推進するため、平成27年10月にスポーツ庁が設置されました。

今後、スポーツ行政が一本化され、トップスポーツ*と地域スポーツが系統だてて推進されることにより、一層、双方の連携・協力が可能となり、スポーツの振興が期待されます。

(2) 大阪府の動向

① 生涯学習分野における動向

大阪府では、平成14年度に「新大阪府生涯学習推進プラン（新プラン）」を策定し、多様な学習の推進に向け様々な施策に取り組んできました。当プランの目標年次である平成22年度が到来した後の平成23年度からは、生涯学習施策を一層強化していくため、生涯学習に関する情報交換や施策のとりまとめなどを行う庁内の推進組織（大阪府生涯学習推進課長会議）を設置し、大阪府が実施している生涯学習関連施策の情報交換と進行管理を行っています。また、平成25年3月に「大阪府教育振興基本計画」を策定しています。

■大阪府の生涯学習施策

【主な取り組み】

- 阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット(HSN ネット)
- 大阪府・市町村生涯学習ネットワーク会議(おおさかふみんネット※)
- 新なにわ塾 など

② スポーツ振興分野における動向

大阪府では、「スポーツ基本法」の制定や、子どもの体力低下、少子高齢化の進行などのスポーツを取り巻く環境の変化を受け、平成8年策定の「大阪府生涯スポーツ社会づくりプラン」に基づいた取り組みの成果を活かすとともに、新たな課題に対応し、今後の大阪の生涯スポーツの振興をより一層すすめるため、平成24年4月に「大阪府スポーツ推進計画」を策定しています。

■大阪府スポーツ推進計画

めざす目標:「大阪スポーツ王国の創造」

【理念】

- だれもが「する」「みる」「ささえる」スポーツに参加できる大阪
- スポーツを通じて健康で明るく活力に満ちた大阪
- スポーツを通じて都市の魅力を創造し、発信する大阪

【推進方針】

- ライフステージに応じたスポーツ機会の創造
- スポーツの活力を生かした都市魅力の創造

③ 文化芸術振興分野における動向

大阪府では、「大阪府文化振興条例」の制定(平成17年4月施行)により、府が文化振興に取り組む基本姿勢を明確にし、平成18年3月に同条例第6条に基づき「おおさか文化プラン(第1次大阪府文化芸術振興計画)」を策定し、文化施策をすすめてきました。また、平成22年3月には、行政の役割をはじめ大阪の文化振興の在り方を改めて整理した「大阪文化振興新戦略(第2次大阪府文化振興計画)」、平成25年3月には「第3次大阪府文化振興計画」を策定し、文化施策をすすめています。

■第3次大阪府文化振興計画の基本的な考え方

めざす将来像:「文化自由都市、大阪」

【理念】

- 社会を支える文化
- 都市全体に開かれた文化
- 未来へ伝え育む文化
- アーティストが集う都市

【施策の方向】

- 文化創造の基盤づくり
- 都市魅力の向上
- 人と地域のエンパワーメント

(3) 交野市の動向

平成3年4月に「交野市生涯学習基本構想」を策定し、平成5年には交野市教育委員会において生涯学習推進部を設置し、生涯学習推進施策に取り組んできました。

生涯学習関連施設については平成3年以降、「交野市立総合体育施設」や「倉治図書館」を設置し、環境整備を行ってきました。

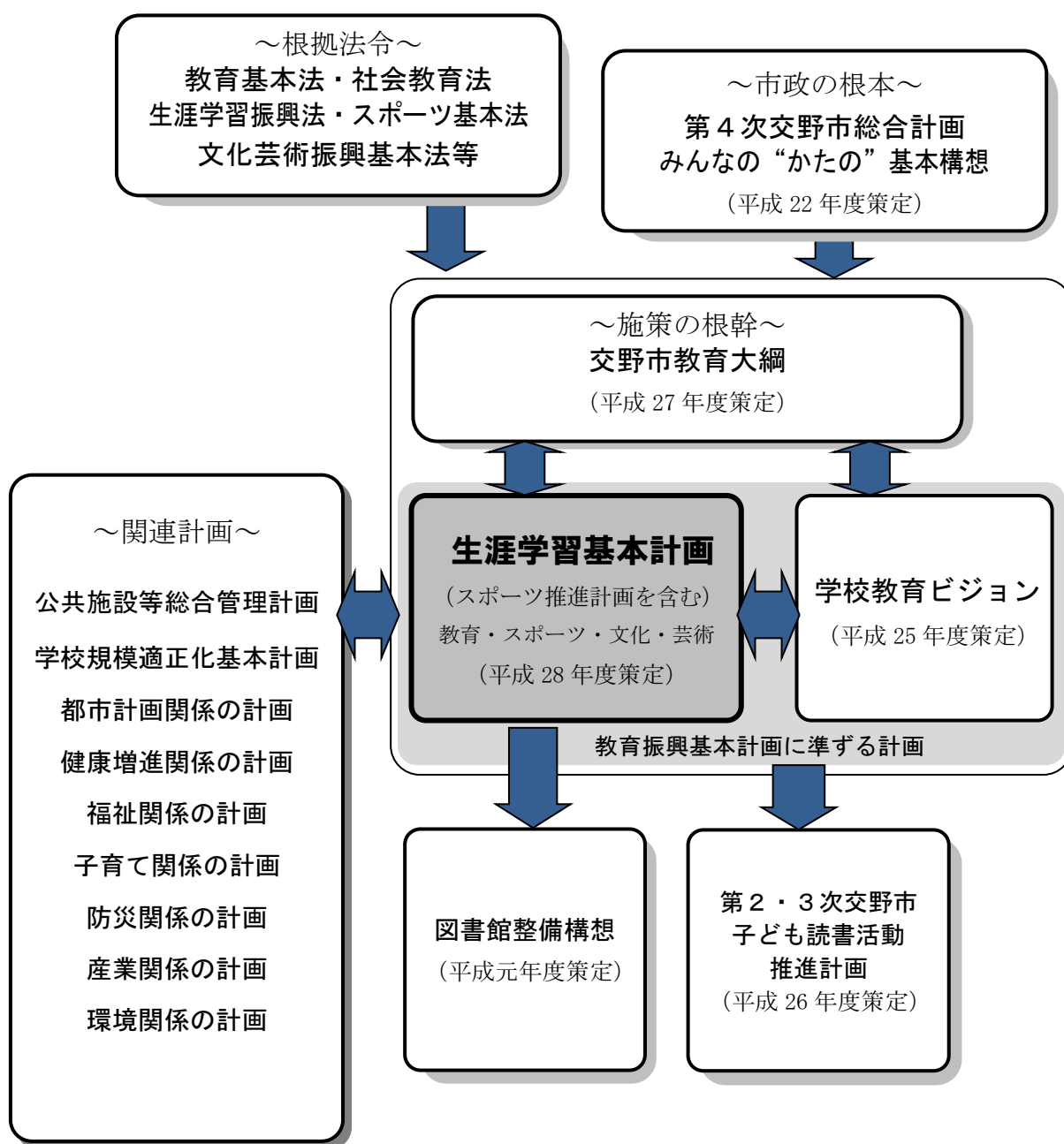
平成25年10月には「交野市学校教育ビジョン」を策定し、平成28年1月には生涯学習の推進を含む、交野市における教育の総合的な施策や目標の根本となる方針を定めた「交野市教育大綱」を策定しました。

和暦	西暦	主な関連計画など	キーワード
S60	1985	第2次総合計画 1985－2000	「21世紀をめざすまちづくり」人口10万人
H元	1989	図書館整備構想	中央図書館を含めて4～5の分館
H3	1991	生涯学習基本構想	人口10万人を想定、国内ではバブル崩壊
H3	1991	星田西体育施設整備	国の景気対策、以下総合体育施設まで同様
H4	1992	保健福祉総合センター整備	交野市立機能支援センター、交野市立高齢者生きがい創造センター及び交野市立ボランティアセンターを含む
H4	1992	いわふね自然の森スポーツ・文化センター	S62 スポーツレクレーションセンター開設
H5	1993	生涯学習推進部を設置	生涯学習を推進する部を新たに設置
H5	1993	星田図書館整備基本計画	用地買収が遅れ H12 財政状況などから凍結
H8	1996	倉治図書館整備	(高齢化率 9.6%)
H9	1997	総合体育施設整備	土地開発公社残高 368 億円 (ピーク)
H9	1997	国民体育大会開催	ソフトボール、登攀競技
H12	2000	第3次総合計画 2001－2010	「水と緑が暮らし彩る」人口10万人
H16	2004	第1次財政健全化計画	土地開発公社 254 億円 H14 三位一体改革
H18	2006	教育基本法・第3条改正	生涯学習の理念を規定 学習機会・場所の実現
H21	2009	第2次財政健全化計画	世界金融危機 H20 リーマン・ショック
H22	2010	第2京阪道路開通	沿道整備構想などに伴う多額の負債(公社)
H22	2010	第4次総合計画 2011－2030	「かたのサイズなまち暮らし」人口減少時代へ
H23	2011	スポーツ基本法施行	地方公共団体の責務、推進計画策定の努力義務
H23	2011	環境基本計画	地域と地球の良好な環境を保持
H25	2013	学校教育ビジョン	情(こころ)を育み・変化する力・変化に対応する力
H25	2013	健康増進・食育推進計画	誰もが健康を実感し、明るく生き生き
H26	2014	第2・3次子ども読書活動推進計画	子どもと家庭・学校・地域
H26	2014	子ども・子育て支援事業計画	子どもが夢と希望を持って健やかに育まれる
H27	2015	第3期地域福祉計画	思いやりのある福祉のまちづくり
H27	2015	市長戦略(政策・行革・財政)	生涯学習推進計画などの策定含む
H27	2015	教育大綱	「教育百年の森」の実現
H28	2016	生涯学習基本計画の策定	スポーツ推進計画含む 人口減少・超高齢化学習の個別化、個人主義
H28	2016	公共施設等総合管理計画の策定	コンパクトシティ※を視野に公共施設の再配置
H28	2016	学校規模適正化基本方針策定	教育環境の維持向上、学校規模の適正化

4. 計画の位置づけ

本計画は、「第4次交野市総合計画」に基づく部門計画とし、その基本理念「あじわい・なりわい・にぎわい “みんなの” でわいわいと “かたのサイズ” なまち暮らし」を実現するためのまちづくりの目標「子どもや若者が、それぞれの個性を育み、のびのびと遊び、学ぶ暮らし」などの実現に向けて、生涯学習及びスポーツの振興を具体化するための計画です。

また、「交野市教育大綱」に基づく2つの柱の一つとして、「交野市学校教育ビジョン」と連動をはかりながら「交野市公共施設等総合管理計画」などの様々な分野の関連計画との整合を持つ計画です。



5. 計画の期間

本計画の期間は平成29年度から平成38年度までの10年間とします。

なお、社会情勢の変化や施策の動向を踏まえ、必要に応じて計画内容の検討と見直しを行います。

6. 計画の策定体制

(1) 交野市生涯学習基本計画推進委員会

市民や有識者、関係団体、関係機関などで組織された委員会であり、本計画についての意見交換及び審議を行いました。

(2) 庁内検討会議

庁内関係課の代表を構成員として設置した検討会議であり、本市の生涯学習に関する施策を総合的かつ効果的に推進するため、「交野市生涯学習基本構想」に照らし合わせた現況や課題を整理しながら、本計画の策定作業をすすめました。

■庁内の生涯学習関連事業の把握概要

調査対象	: 関係各課(教育総務室、学校管理課、指導課、社会教育課、青少年育成課、図書館、秘書・政策企画課、財務課、みんなの活力課、人権と暮らしの相談課、医療保険課、子育て支援課、こども園課、健康増進課、福祉総務課、高齢介護課、環境衛生課、環境総務課、都市計画課、土木建設課)
調査期間	: 平成28年5月20日～5月30日
調査方法	: 現状・課題把握シートにより各課の課題を抽出



（３）市民アンケート調査の実施

計画策定に先立ち、今後の生涯学習を推進していくために、アンケート調査により生涯学習活動の参加理由や生涯学習関連施設の利用状況などの現状をたずね、市民の意識や今後のニーズなどを把握しました。

■アンケート調査概要

調査地域	: 市内全域
調査対象者	: 市内在住の満 16 歳以上の市民
抽出方法	: 住民基本台帳より、2,000 人を無作為抽出（ただし、地域・年齢は考慮する）
調査期間	: 平成 28 年 7 月 16 日～7 月 31 日
調査方法	: 郵送による配布・回収
回収数及び回収率	: 680 人/34.0%

（４）団体アンケートの実施

地域で活動している団体からの生の声を計画に反映させるため、市内生涯学習活動関係団体の意向や活動状況、課題などをたずね、団体の意識や今後のニーズなどを把握しました。

■アンケート調査概要

調査対象者	: 市内生涯学習活動関係団体（アンケート/83 団体）
調査期間	: 平成 28 年 7 月～8 月中
調査方法	: アンケート調査票の配布・回収による定量調査
回収数及び回収率	: 66 団体/79.5%

（５）ワークショップ※の実施

生涯学習に関する団体・組織からワークショップを通じて、市民・団体アンケートの結果から抽出された課題、またその対応策に対するアイデアをいただきました。

■ワークショップ概要

実施日時	: 平成 28 年 9 月 9 日／19 時から 21 時
実施会場	: 交野市役所 別館 3 階 中会議室
参加状況	: 市内生涯学習活動関係団体より 53 名が参加

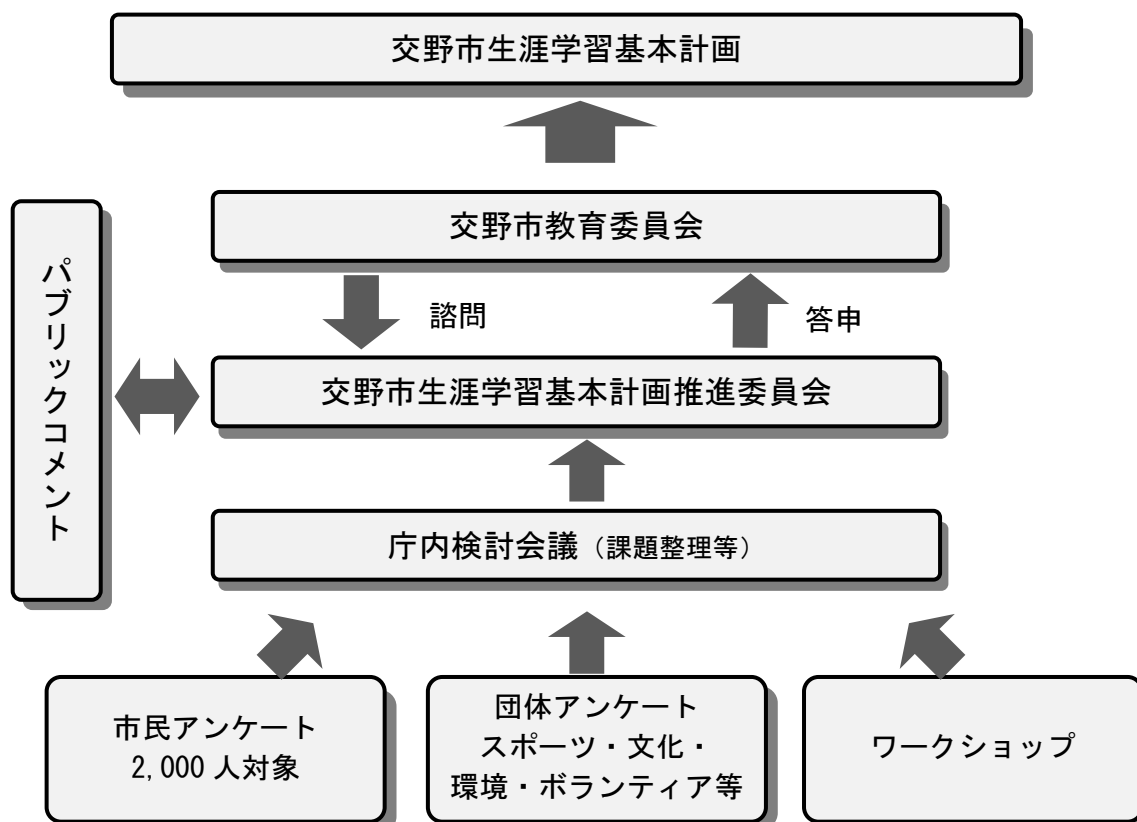
(6) パブリックコメントの実施

広く市民などから意見を聴取し、それらを計画に反映させるためにパブリックコメントを実施しました。

■パブリックコメント概要

実施期間	:平成 29 年1月 20 日～2月 20 日/平日午前9時から午後5時 30 分まで
提出方法	:直接持参、郵送、FAX、電子メール(書面は自由)
意見件数	:1人/3件

(7) 計画の策定体制図



第2章 交野市の生涯学習を取り巻く現状と課題

1. 市の概況

(1) 市の地形

本市は大阪府の東北部、大阪と京都のほぼ中央に位置し、西は寝屋川市、南は四條畷市、北は枚方市に接しています。大阪市、京都市及び奈良市までの距離がいずれも概ね20キロメートルのところにあり、古くからこの3都市の文化を吸収し、独特の風土を培ってきました。

市の面積は25.55平方キロメートルで、約半分が山地で占められており、その中には金剛生駒紀泉国定公園があり、交野吊橋～星のブランコ～からは府民の森、ほしだ園地が眼下に眺むことができ、四季折々の美しい風景は市民のみならず、大阪府民、さらには近隣の府県の人々にも愛されています。

これらの自然環境の良さに加え、JR学研都市線や京阪電鉄、第二京阪道路などの交通の利便性から、大阪都心のベッドタウンとして発展し、人口が増加してきた経緯があります。

(2) 市の沿革

明治維新後、交野の地域は河内県、堺県と管轄が代わり、明治14年に大阪府管下となりました。明治22年市町村制の公布で、交野村（私部、倉治、郡津）、磐船村（森、寺、私市、傍示）、星田村ができました。

昭和14年に交野村と磐船村が合併して交野町となり、昭和30年、「町村合併促進法」の施行で、交野町と星田村が合併し、新しい交野町になりました。人口わずか1万人で素朴な農山村の面影を残していましたが、昭和45年10月1日には3万3,701人（国勢調査）を数え、都市的施設の充実に努めるため、昭和46年11月3日に市制を施行しました。

平成23年に市制施行40周年の節目を迎え、まちづくりの指針となる「第4次交野市総合計画」（平成23年～平成34年）に基づき、まちづくりをすすめています。

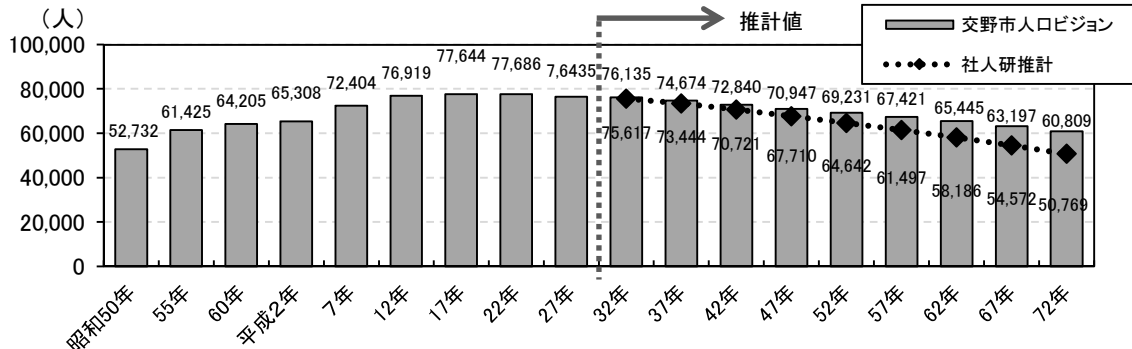
さらに、国の重要施策として「地方創生」への取り組みを受け、交野市においても、人口の将来展望を提示する「交野市人口ビジョン」及び「交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成28年1月に策定するとともに、市長戦略において、「ずっと“かたの”・もっと“かたの”～自然と人が共生し、子育てと地域の絆で元気な交野」をめざして新たな取り組みをすすめています。

2. 市の人口及び世帯などの状況

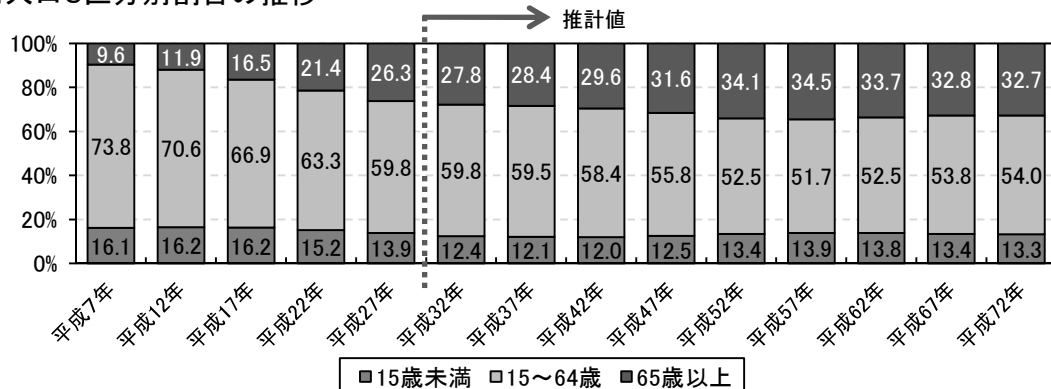
(1) 総人口及び人口3区分割合

本市の人口は、昭和50年から平成22年にかけて増加傾向で推移していましたが、平成27年に減少に転じ、その後も減少していくことが予測されています。また、人口3区分割合では、65歳以上の割合が平成7年の9.6%から平成27年では26.3%と大きく増加しており、将来的にも平成57年までは増加傾向が予測されています。

■人口の推移



■人口3区分別割合の推移

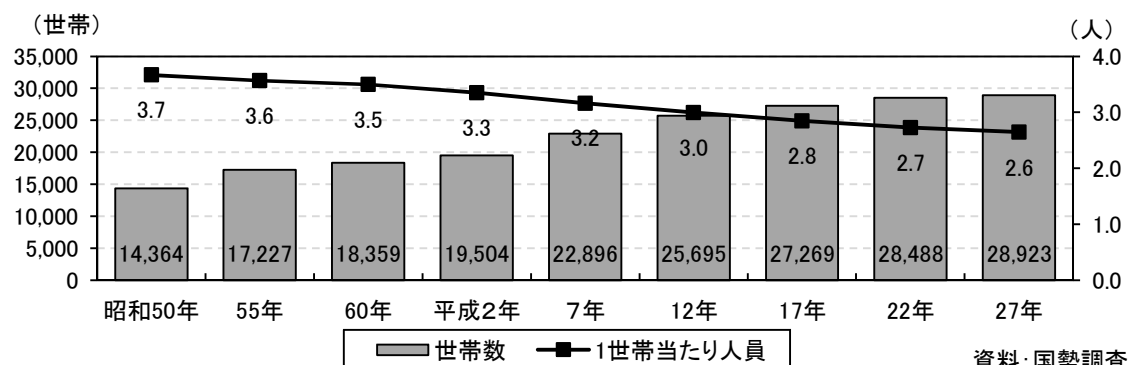


資料：国勢調査(昭和50年～平成27年)、交野市人口ビジョン(平成32年以降)

(2) 世帯

本市の世帯は、昭和50年の14,364世帯から平成27年には28,923世帯と大きく増加しています。また1世帯当たり人員は、平成27年には2.6人となっており、核家族化がすすんでいます。

■世帯数及び1世帯当たり人員の推移



資料：国勢調査

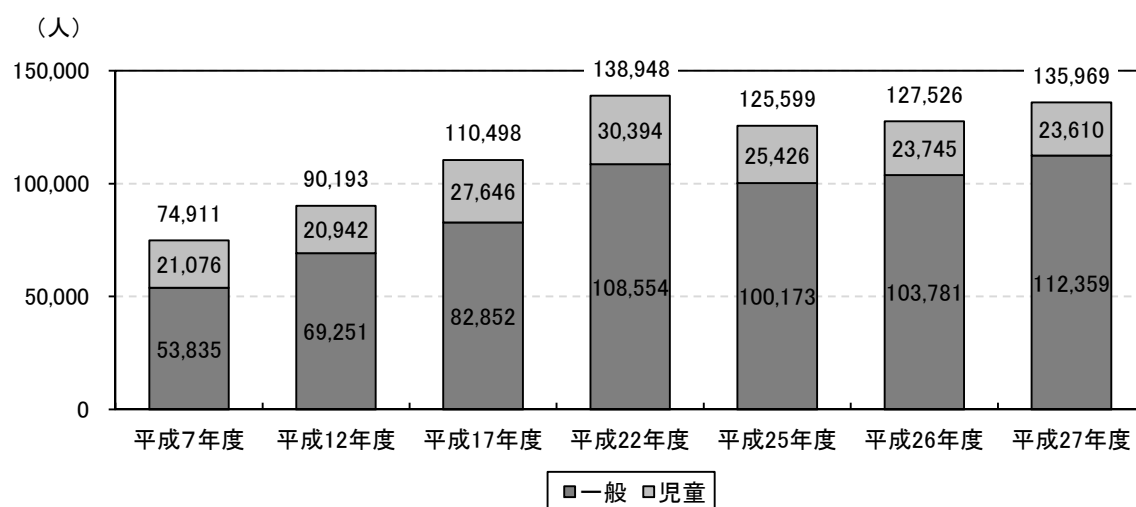
3. 市の施設や活動団体の状況

(1) 図書館・室の利用状況

図書館の利用人数は、平成7年度から平成22年度にかけて増加傾向で推移しましたが、平成22年度をピークに平成25年度にかけて減少傾向に転じました。その後、平成26年度から平成27年度にかけては微増傾向に推移しています。

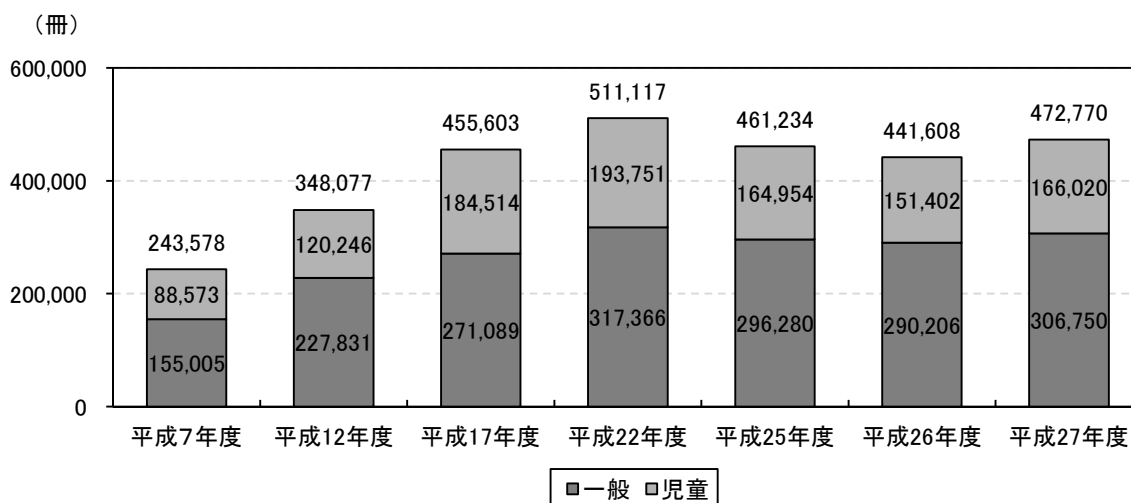
図書館の貸出冊数についても同様に、平成7年度から平成22年度にかけて増加傾向で推移しましたが、平成22年度をピークに26年度にかけて減少傾向に転じました。その後平成27年度には増加となっています。

■図書館・室の利用人数の推移



資料：平成27年交野市統計時報 市図書館

■図書館・室の貸出冊数の推移



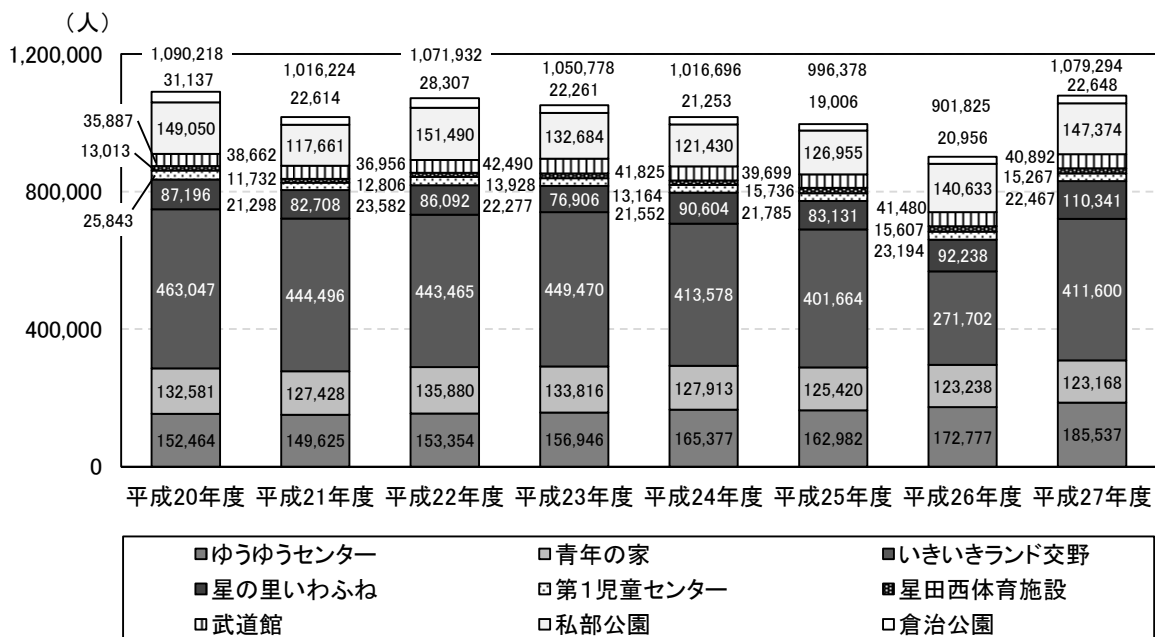
資料：平成27年交野市統計時報 市図書館

(2) 生涯学習に活用している主な公共施設の利用状況

生涯学習に活用している主な公共施設の利用人数は平成22年度以降減少傾向にありましたが、平成27年度では1,079,294人と増加に転じています。「ゆうゆうセンター」「星の里いわふね」「星田西体育施設」「武道館」については、平成20年度から平成27年度にかけて、利用人数が増加しています。

なお、平成26年度の「いきいきランド交野」の利用人数については、吊り天井の改修工事があったため一時的な利用者の減少がみられます。また、「ゆうゆうセンター」は福祉施設ですが、社会教育施設と同様に文化団体の利用も多くみられます。

■生涯学習に活用している主な公共施設の利用人数(年間1万人以上の施設)の推移



資料: 社会教育課調べ

■生涯学習に活用している主な公共施設

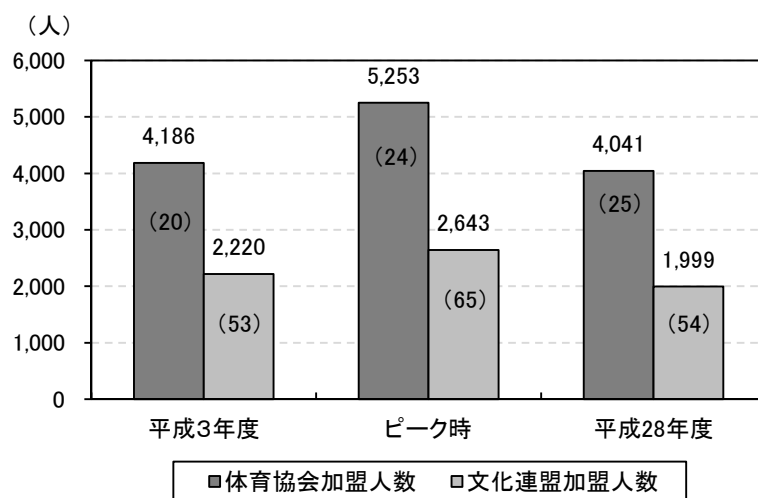
	名称	所在地	設置年度
文化・スポーツ関連施設	青年の家	私部2丁目29-1	昭和51年度
	総合体育施設(いきいきランド交野)	向井田2丁目5-1	平成9年度
	いわふね自然の森スポーツ・文化センター(星の里いわふね)	私市9丁目4-8	昭和62年度
	第1児童センター	幾野2丁目6-1	昭和57年度
	星田西体育施設	星田西3丁目28-1	平成3年度
	武道館	私部2丁目29-3	昭和56年度
	倉治図書館	倉治6丁目9-20	平成8年度
	教育文化会館(歴史民俗資料展示室)	倉治6丁目9-21	昭和48年度
	私部公園(グラウンド・テニスコート)	私部南3丁目	昭和55年度
	倉治公園(グラウンド・テニスコート)	神宮寺2丁目	平成13年度

	名称	所在地	設置年度
その他施設	保健福祉総合センター (ゆうゆうセンター)	健康増進センター	平成4年度
		世代間交流センター	
		ボランティアセンター	平成6年度
		高齢者生きがい創造センター	平成4年度
	いきものふれあいセンター(いきものふれあいの里)	倉治2935-1	平成4年度

(3) 主な社会教育関係団体の加盟団体数及び会員数の推移

体育協会及び文化連盟加盟団体数及び会員数の推移をみると、体育協会については平成12年度、文化連盟については平成11年度をピークに、平成28年度においては、体育協会加盟人数は4,041人(25団体)、文化連盟加盟人数は1,999人(54団体)と減少傾向にあります。

■体育協会及び文化連盟団体数及び会員数の推移



※()の数値は団体数

資料: 社会教育課調べ

4. 市民意識調査結果からみる生涯学習・スポーツの状況

以下の調査結果による比較・分析を行いました。

■今回調査の概要(交野市実施:平成28年度)

調査地域	: 市内全域
調査対象者	: 市内在住の満16歳以上の市民
抽出方法	: 住民基本台帳より、2,000人を無作為抽出(ただし、地域・年齢を考慮)
調査期間	: 平成28年7月16日～7月31日
調査方法	: 郵送による配布・回収
回収数及び回収率	: 680人/34.0%

■前回調査の概要(交野市実施:平成2年度)

調査地域	: 市内全域
調査対象者	: 市内在住の満20歳以上の市民
抽出方法	: 3,000人を無作為抽出(ただし、地域・年齢を考慮)
調査期間	: 平成2年9月13日～10月9日
調査方法	: 郵送による配布・回収
回収数及び回収率	: 1,605人/53.5%

■生涯学習に関する世論調査(内閣府実施:平成27年度)

調査地域	: 全国
調査対象者	: 全国20歳以上の日本国籍を有する者3,000人
調査期間	: 平成27年12月10日～12月20日
調査方法	: 調査員による個別面接聴取
回収数及び回収率	: 1,653人/55.1%

■生涯学習に関する世論調査(内閣府実施:平成24年度)

調査地域	: 全国
調査対象者	: 全国20歳以上の日本国籍を有する者3,000人
調査期間	: 平成24年7月5日～7月15日
調査方法	: 調査員による個別面接聴取
回収数及び回収率	: 1,956人/65.2%

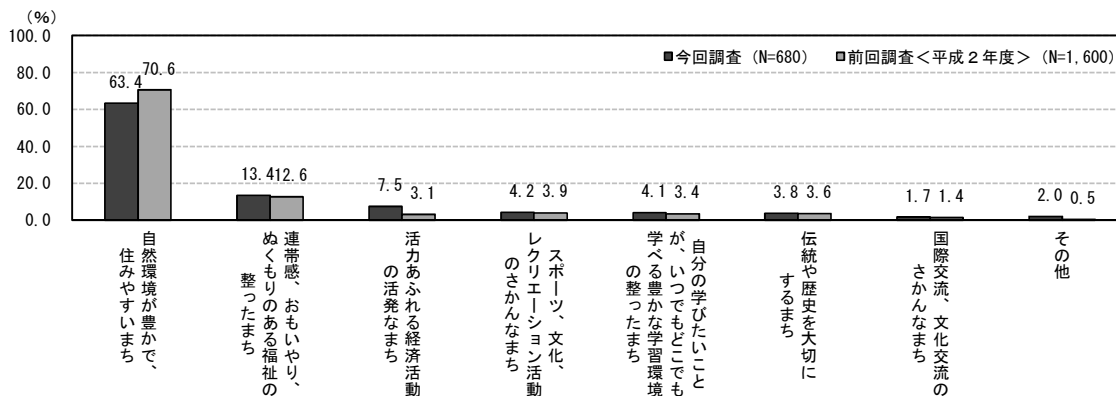
※グラフタイトルに●(黒丸)が記された項目は、全国調査との経年を比較するために、アンケート調査結果の「不明・無回答」を除く割合を算出し、掲載しています。

(1) 交野市への意識

●将来に向けて交野市をどんなまちにしたいか(交野市実施:平成28年度、平成2年度)

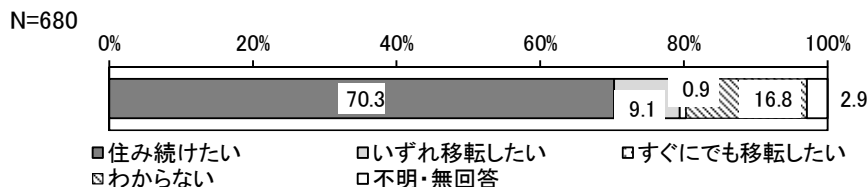
将来に向けて交野市をどんなまちにしたいかをみると、「自然環境が豊かで、住みやすいまち」が63.4%と最も多く、次いで「連帯感、おもしろい、ぬくもりのある福祉の整ったまち」が13.4%、「活力あふれる経済活動の活弁なまち」が7.5%となっています。

前回調査(交野市実施:平成2年度)との比較をみると、「自然環境が豊かで、住みやすいまち」について、7.2ポイント減少しています。



■これからも交野市に住みたいと思うか(交野市実施:平成28年度)

交野市への定住意向をみると、「住み続けたい」が70.3%と最も多くなっています。「わからない」については、16.8%となっています。

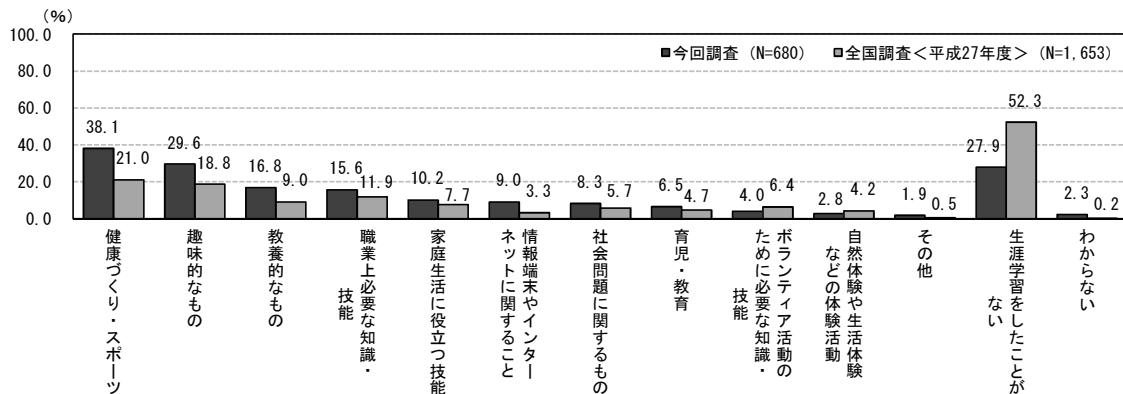


(2) 生涯学習活動の状況

●過去1年間の生涯学習の実施状況(交野市実施:平成28年度、内閣府実施:平成27年度)

過去1年間の生涯学習の実施状況をみると、「健康づくり・スポーツ」が38.1%と最も多く、次いで「趣味的なもの」が29.6%、「教養的なもの」が16.8%となっています。「生涯学習をしたことがない」については、27.9%となっています。

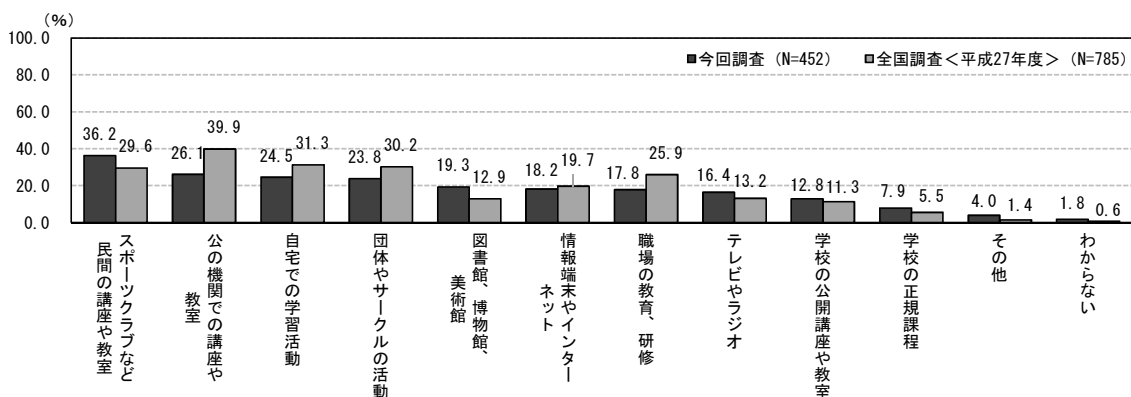
全国調査(内閣府実施:平成27年度)との比較をみると、「健康づくり・スポーツ」について17.1ポイント多くなっています。また、「生涯学習をしたことがない」については、24.4ポイント少なくなっています。



●生涯学習活動の形態(交野市実施:平成28年度、内閣府実施:平成27年度)

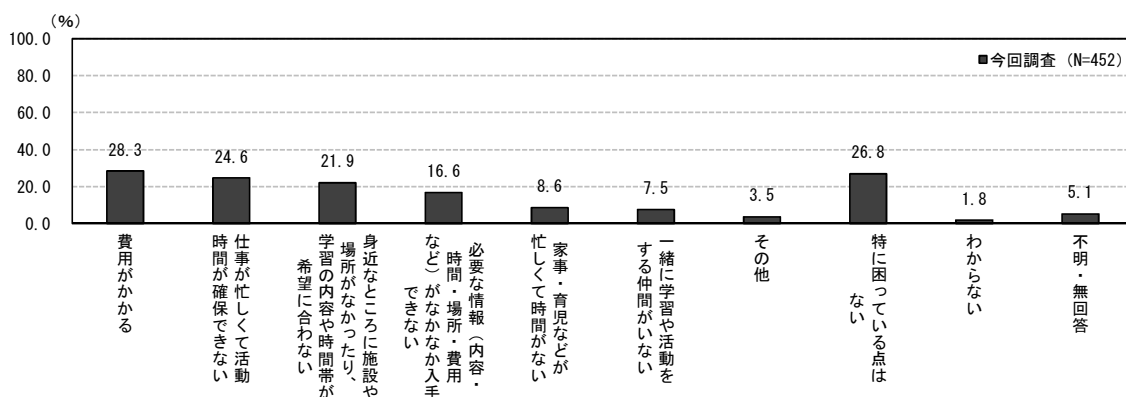
生涯学習活動の形態についてみると、「スポーツクラブなど民間の講座や教室」が36.2%と最も多く、次いで「公の機関での講座や教室」が26.1%、「自宅での学習活動」が24.5%となっています。

全国調査(内閣府実施:平成27年度)との比較をみると、「スポーツクラブなど民間の講座や教室」について6.6ポイント多くなっています。また、「公の機関での講座や教室」については、13.8ポイント少なくなっています。



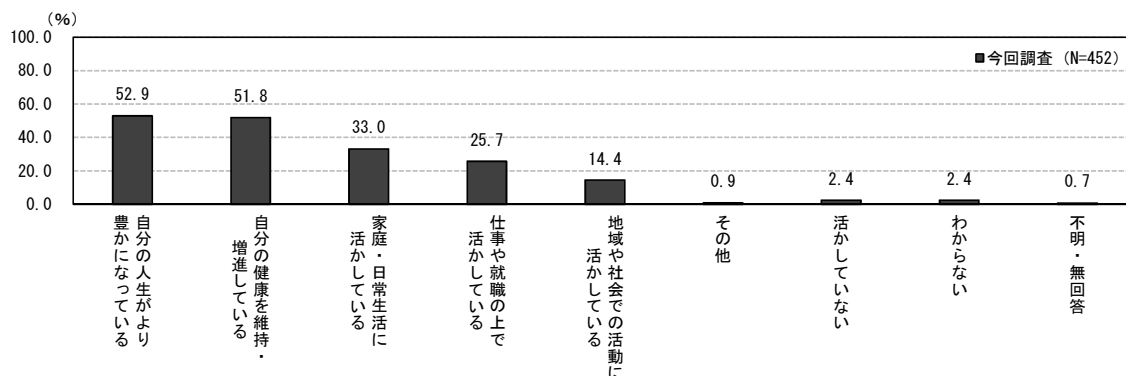
■生涯学習活動を行う上で困る点(交野市実施:平成28年度)

生涯学習活動を行う上で困る点についてみると、「費用がかかる」が28.3%と最も多く、次いで「仕事が忙しくて活動時間が確保できない」が24.6%、「身近なところに施設や場所がなかったり、学習の内容や時間帯が希望に合わない」が21.9%となっています。



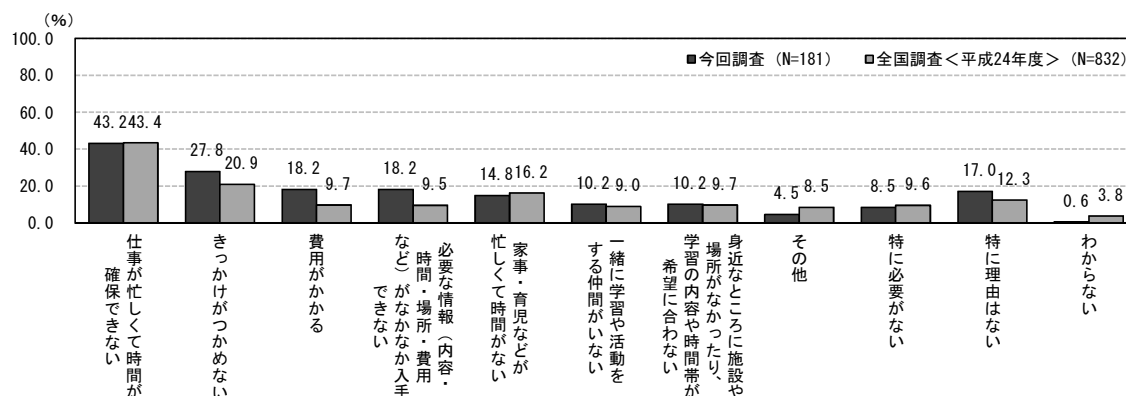
■活動を通じて身に付けた知識・技能などをどのように活かしているか(交野市実施:平成28年度)

身に付けた知識・技能の活かし方についてみると、「自分の人生がより豊かになっている」が52.9%と最も多く、次いで「自分の健康を維持・増進している」が51.8%、「家庭・日常生活に活かしている」が33.0%となっています。



●生涯学習活動を行っていない理由(交野市実施:平成28年度、内閣府実施:平成24年度)

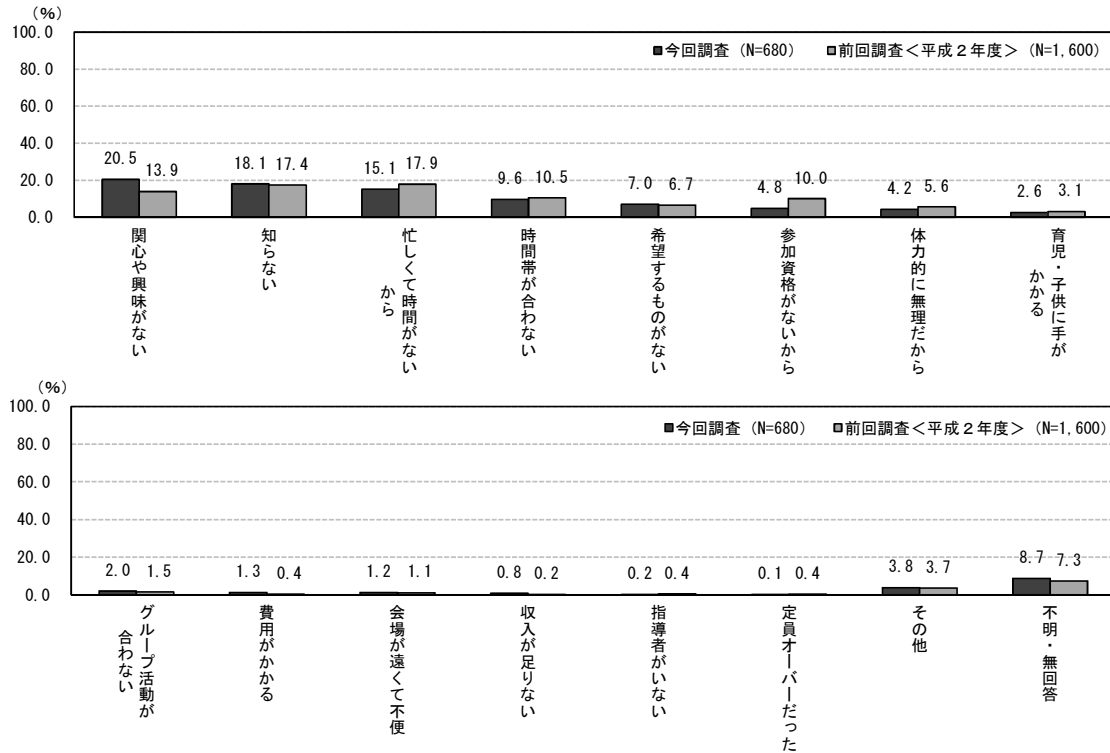
生涯学習活動を行っていない理由についてみると、「仕事が忙しくて時間が確保できない」が43.2%と最も多く、次いで「きっかけがつかめない」が27.8%、「費用がかかる」及び「必要な情報(内容・時間・場所・費用など)がなかなか入手できない」がどちらも18.2%となっています。



■地域・ボランティア・老人クラブ活動などに参加しない理由(交野市実施:平成28年度、平成2年度)

地域・ボランティア・老人クラブ活動などに参加しない理由についてみると、「関心や興味がない」が20.5%と最も多く、次いで「知らない」が18.1%、「忙しくて時間がないから」が15.1%となっています。

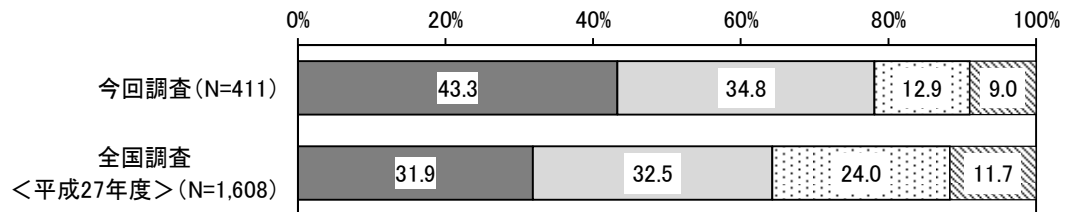
前回調査(交野市実施:平成2年度)との比較をみると、「関心や興味がない」について6.6ポイント増加しています。



●学校を支援する活動への参加意思(交野市実施:平成28年度、内閣府実施:平成27年度)

学校を支援する活動への参加意思についてみると、「参加したことがなく、今後も参加したくない」が43.3%、「参加したことがないが、今後は参加してみたい」が34.8%、「参加したことがあり、今後も参加したい」が12.9%、「参加したことがあるが、今後は参加したくない」が9.0%となっています。

全国調査(内閣府実施:平成27年度)との比較をみると、「参加したことがあり、今後も参加したい」について11.1ポイント少なくなっています。



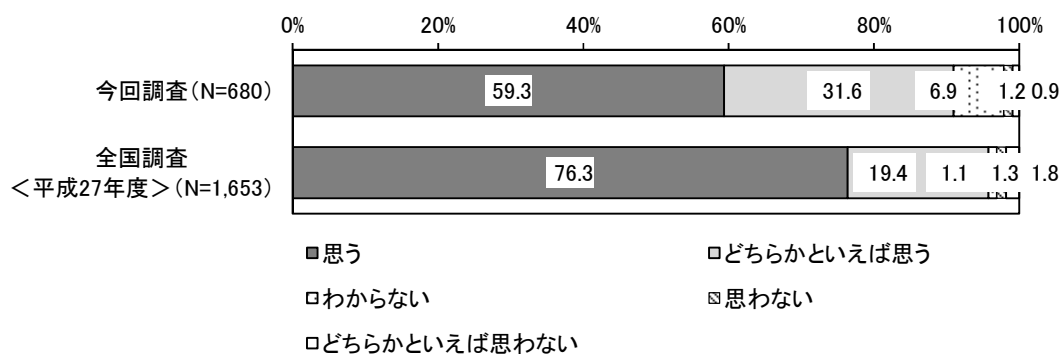
- 参加したことがなく、今後も参加したくない
- 参加したことがないが、今後は参加してみたい
- ▨ 参加したことがあり、今後も参加したい
- ▩ 参加したことがあるが、今後は参加したくない

※選択肢「わからない」を除くサンプル数をもとに再計算して掲載しています。

●子どもたちの地域参加が有意義かどうか(交野市実施:平成28年度、内閣府実施:平成27年度)

子どもたちの地域参加が有意義かどうかについてみると、「思う」が59.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば思う」が31.6%、「わからない」が6.9%となっています。

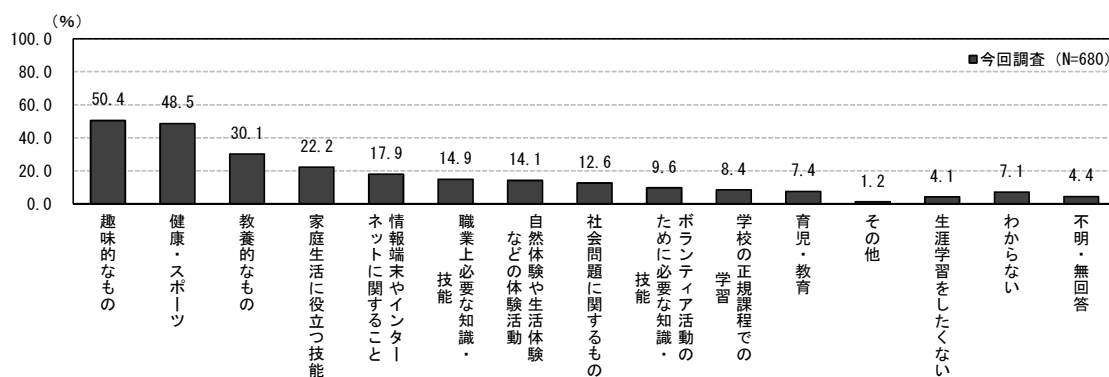
全国調査(内閣府実施:平成27年度)との比較をみると、「思う」について17.0ポイント少なくなっています。



(3) 生涯学習活動への今後の意向

■今後どのような活動をしたいか(交野市実施:平成28年度)

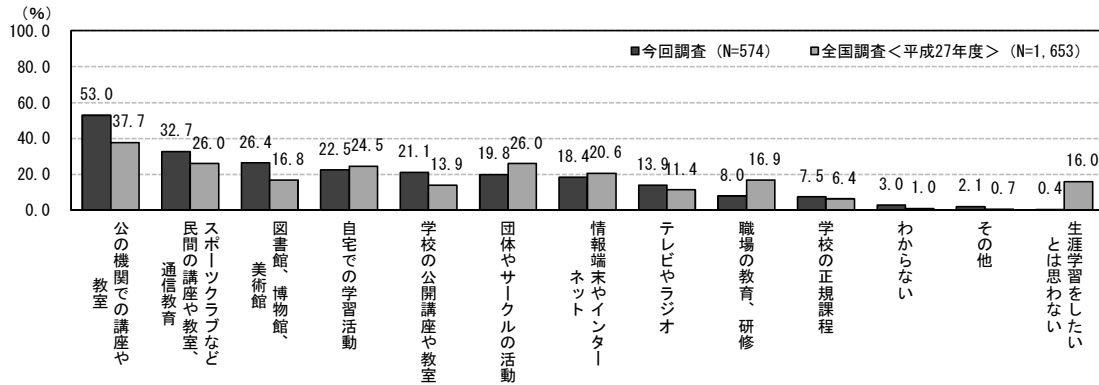
今後行いたい生涯学習活動についてみると、「趣味的なもの」が50.4%と最も多く、次いで「健康・スポーツ」が48.5%、「教養的なもの」が30.1%となっています。



●今後希望する場所や形態(交野市実施:平成28年度、内閣府実施:平成27年度)

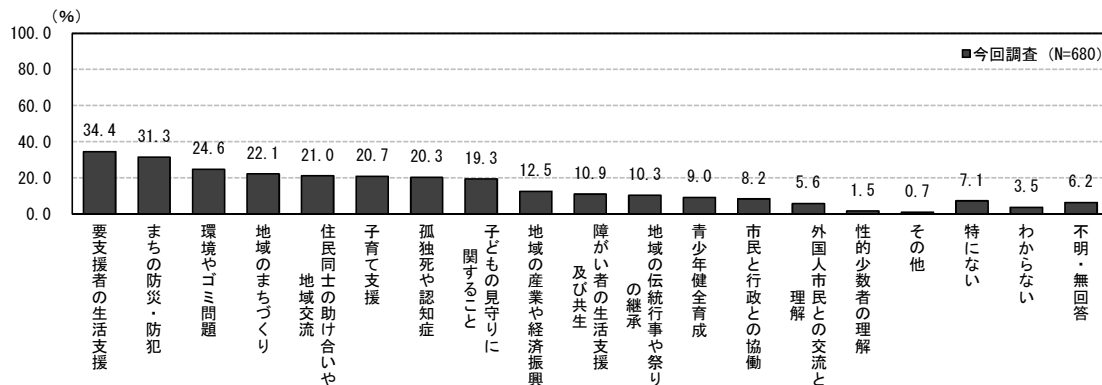
今後希望する場所や形態についてみると、「公の機関での講座や教室」が53.0%と最も多く、次いで「スポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」が32.7%、「図書館、博物館、美術館」が26.4%となっています。

全国調査(内閣府実施:平成27年度)との比較をみると、「公の機関での講座や教室」について15.3ポイント多くなっています。



■特に関心のある地域課題に関するテーマ(交野市実施:平成28年度)

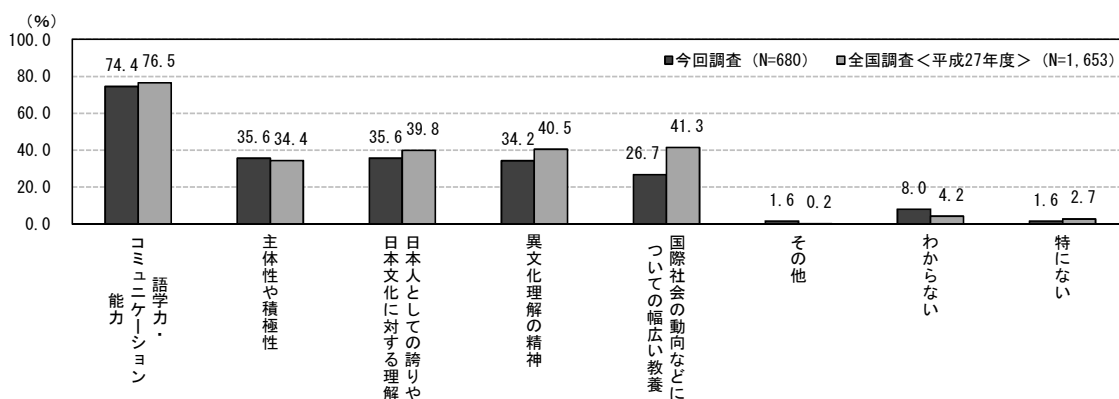
特に関心のあるテーマについてみると、「要支援者の生活支援」が34.4%と最も多く、次いで「まちの防災・防犯」が31.3%、「環境やゴミ問題」が24.6%となっています。



●グローバル人材*育成のために必要な教育(交野市実施:平成28年度、内閣府実施:平成27年度)

グローバル人材育成のために必要な教育についてみると、「語学力・コミュニケーション能力」が74.4%と最も多く、次いで「主体性や積極性」及び「日本人としての誇りや日本文化に対する理解」がどちらも35.6%となっています。

全国調査(内閣府実施:平成27年度)との比較をみると、「国際社会の動向などについての幅広い教養」について14.6ポイント少なくなっています。

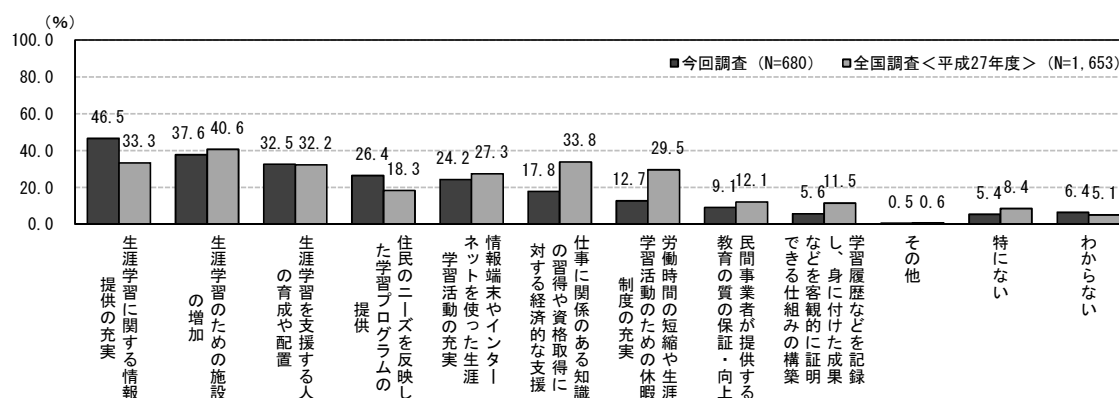


●生涯学習活動をさかんにしていくために市が力を入れるべきこと

(交野市実施:平成28年度、内閣府実施:平成27年度)

市が力を入れるべきことについてみると、「生涯学習に関する情報提供の充実」が46.5%と最も多く、次いで「生涯学習のための施設の増加」が37.6%、「生涯学習を支援する人の育成や配置」が32.5%となっています。

全国調査(内閣府実施:平成27年度)との比較をみると、「生涯学習に関する情報提供の充実」について13.2ポイント、「住民のニーズを反映した学習プログラムの提供」について8.1ポイント多くなっています。「仕事に関係のある知識の習得や資格取得に対する経済的な支援」については16.0ポイント、「労働時間の短縮や生涯学習活動のための休暇制度の充実」については16.8ポイント少なくなっています。

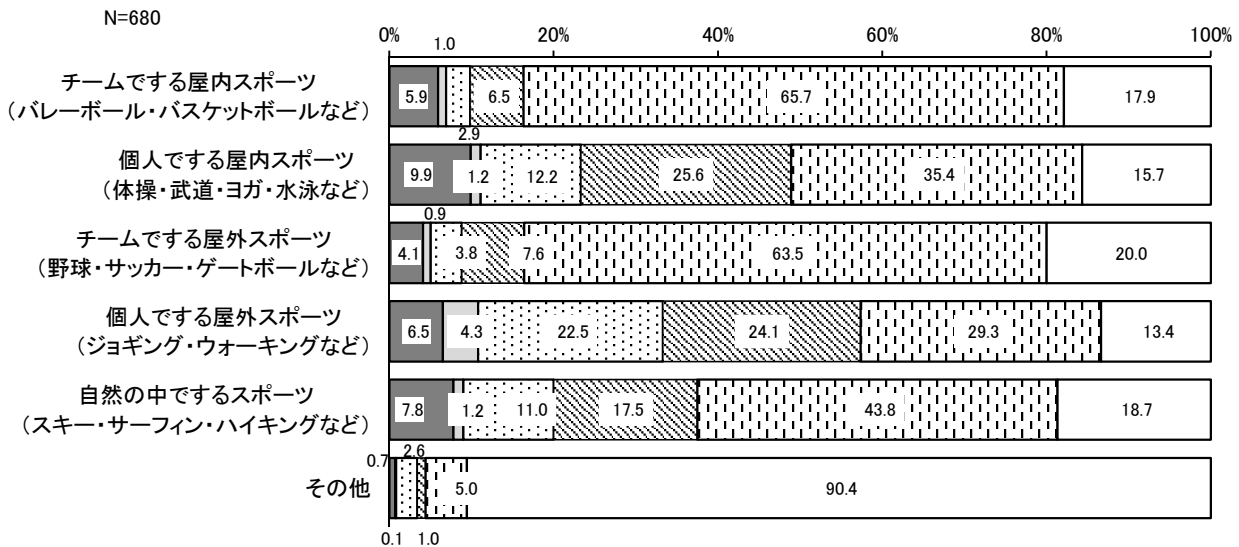


(4) スポーツや運動に関する状況

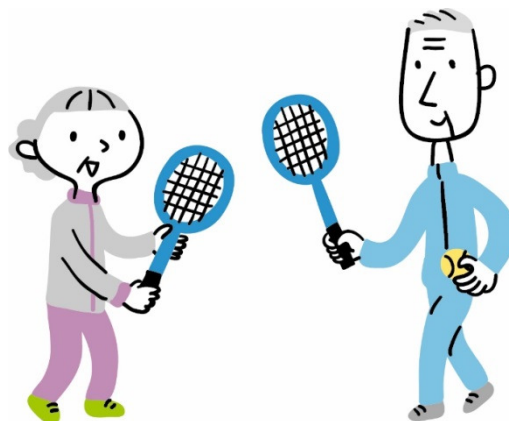
■スポーツや運動に関する実施状況(交野市実施:平成28年度)

スポーツや運動に関する実施状況についてみると、「これまで行ったことがなく、今後も予定がない」については、「チームでする屋内スポーツ(バレーボール・バスケットボールなど)」「チームでする屋外スポーツ(野球・サッカー・ゲートボールなど)」が6割以上と他のスポーツと比べて多くなっています。

また、「今はしていないが今後始めたい」については、「個人でする屋内スポーツ(体操・武道・ヨガ・水泳など)」「個人でする屋外スポーツ(ジョギング・ウォーキングなど)」が2割以上と他のスポーツと比べて多くなっています。



- ☒ 過去3年間にしたことがあるが、今はやっていない
- ☐ 現在しているが、将来は続けるかどうか分からない
- ☐ 今後も現在同様続けたい
- ☒ 今はしていないが今後始めたい
- ☐ これまで行ったことがなく、今後も予定がない
- ☐ 不明・無回答

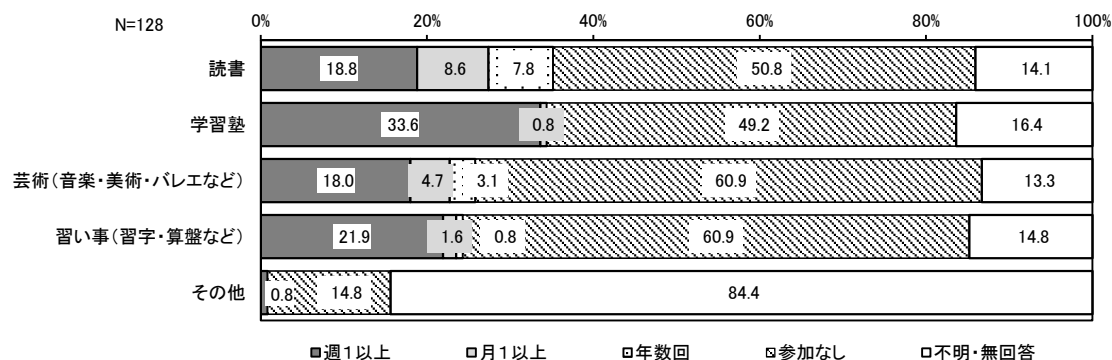


(5) 子どもの生涯学習活動の状況

■過去1年間の子どもの生涯学習の実施状況(交野市実施:平成28年度)

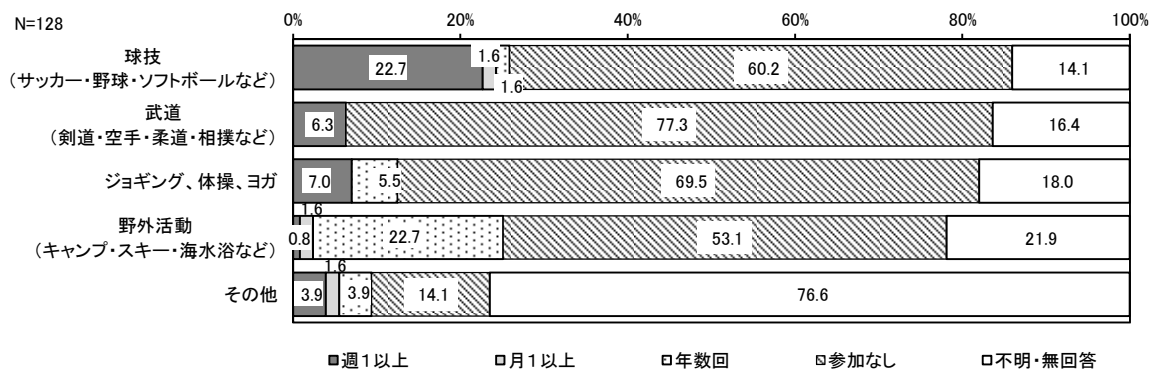
①文化・教養・芸術

文化・教養・芸術の分野の生涯学習の実施状況についてみると、「週1以上」については、「学習塾」が33.6%と他の項目と比べて多くなっています。「週1以上」「月1以上」「年数回」を合わせた割合については、「読書」「学習塾」が3割以上と他の項目と比べて多くなっています。



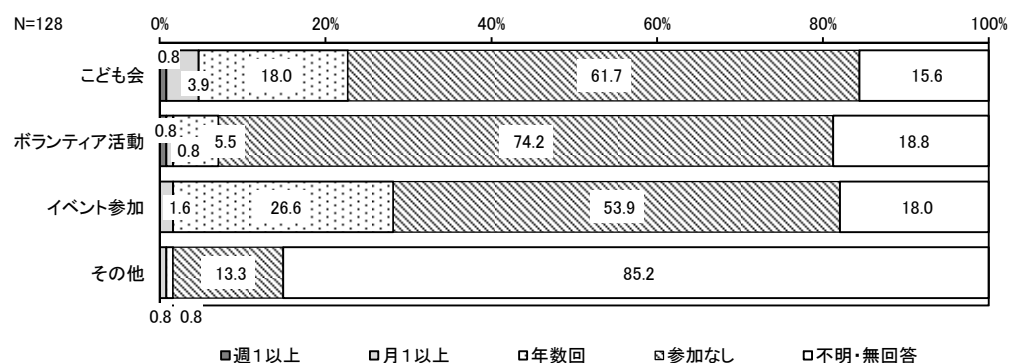
②スポーツ・レクリエーション

スポーツ・レクリエーションの分野の生涯学習の実施状況についてみると、「週1以上」については、「球技(サッカー・野球・ソフトボールなど)」が22.7%と他の項目と比べて多くなっています。「週1以上」「月1以上」「年数回」を合わせた割合については、「球技(サッカー・野球・ソフトボールなど)」「野外活動(キャンプ・スキー・海水浴など)」が2割以上と他の項目と比べて多くなっています。



③地域活動

地域活動の分野の生涯学習の実施状況についてみると、「参加なし」については、「ボランティア活動」が74.2%と他の項目と比べて多くなっています。



(6) 年代別による生涯学習の状況

年代別の主な特徴（生涯学習計画アンケート） 各年代別ベスト3

年代	順位	16～39 歳	%	40 歳～59 歳	%	60 歳～	%
生涯学習に係る情報の入手先は	1	市の広報紙等	58.0	市の広報紙等	74.5	市の広報紙等	84.4
	2	インターネット	43.7	インターネット	43.1	自治会の回覧等	36.6
	3	チラシ・ポスター	31.1	チラシ・ポスター	27.5	新聞・雑誌等	22.6
この1年間にどんな生涯学習をしましたか	1	健康づくり	37.6	したことがない	35.3	健康づくり	43.0
	2	趣味的なもの	29.6	健康づくり	31.2	趣味的なもの	33.8
	3	職業上の知識	29.6	趣味的なもの	23.5	したことがない	27.6
どのような場所や形態で生涯学習をしますか	1	自宅での学習	34.0	民間の教室	39.9	民間の教室	35.3
	2	民間の教室	28.9	自宅での学習	26.8	公の教室	30.9
	3	職場の研修	27.8	職場の研修	23.9	サークル活動	27.5
今後はどのような場所や形態で生涯学習をしたいと思いますか	1	公の教室	37.1	公の教室	55.9	公の教室	57.9
	2	図書館・博物館	35.3	民間の教室	37.7	民間の教室	28.3
	3	民間の教室	31.0	図書館・博物館	28.4	サークル活動	21.0
地域の課題で関心があるものは	1	子育て支援	49.6	防犯・防災	32.6	高齢者の生活支援	40.0
	2	防犯・防災	35.7	高齢者の生活支援	31.7	防犯・防災	28.3
	3	子どもの見守り	32.6	環境・ゴミ問題	24.7	地域の助け合い	24.8
生涯学習を行う上で困っていることは	1	費用がかかる	39.8	忙しく時間がない	40.3	特に困ってない	37.8
	2	忙しく時間がない	37.8	費用がかかる	30.2	費用がかかる	21.5
	3	身近に機会がない	26.5	身近に機会がない	23.0	身近に機会がない	18.2
生涯学習を行う上で交野市に望むものは	1	施設の開放	43.7	情報提供の充実	46.8	情報提供の充実	48.8
	2	情報提供の充実	41.3	施設の開放	35.3	施設の開放	36.3
	3	ネット活用した教室	32.5	人材の育成と配置	30.3	人材の育成と配置	35.9

今はしていないが今後始めたいスポーツの比率（生涯学習計画アンケート）

（ ）内の数値は、現在行っている人の割合

スポーツの分類	単位	16～39 歳	40～59 歳	60 歳～
チームでする屋内スポーツ（バレーボールなど）	%	14.7 (6.2)	9.3 (3.1)	1.3 (3.8)
個人でする屋内スポーツ（ヨガ、体操、武道など）	%	36.4 (10.9)	32.6 (11.9)	15.2 (15.6)
チームでする屋外スポーツ（サッカー、ゲートボールなど）	%	14.0 (6.3)	8.8 (4.4)	4.1 (4.5)
個人でする屋外スポーツ（ウォーキング、ジョギングなど）	%	27.1 (23.2)	30.8 (25.5)	17.8 (29.2)
自然の中でするスポーツ（スキー、ハイキングなど）	%	28.7 (13.2)	20.3 (12.7)	10.5 (11.1)

5. 団体アンケート結果からみる生涯学習・スポーツの状況

以下の調査結果による分析を行いました。

■アンケート調査概要

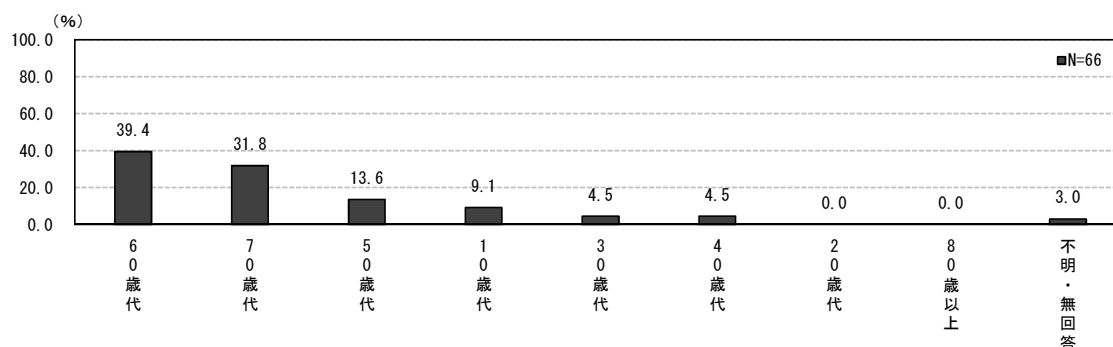
調査対象者	: 市内生涯学習活動関係団体(アンケート/83 団体)
調査期間	: 平成 28 年7月～8月
調査方法	: アンケート調査票の配布・回収による定量調査
回収数及び回収率	: 66 団体/79.5%

(1) 団体の概況

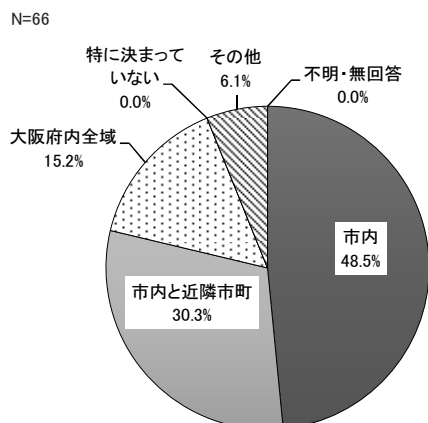
会員構成においては、特に 60 歳代、70 歳代が多い年代となっています。また、活動範囲においては、「市内」が 48.5%と最も多く、次いで「市内と近隣市町」が 30.3%、「大阪府内全域」が 15.2%となっています。

活動分野においては、「スポーツ・健康」(39.4%)、「くらし・社会」(33.3%)、「文化・芸術・趣味」(18.2%)、「学術・教養」(6.1%)、「その他」(9.1%)となっています。

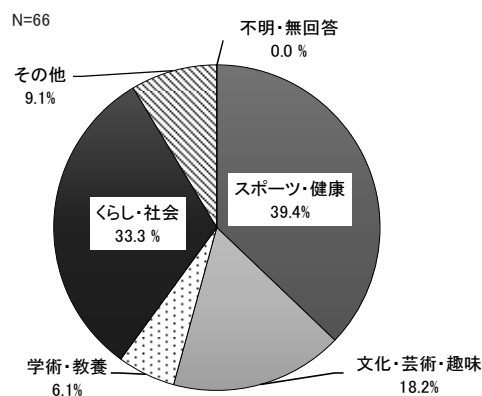
■会員構成において多い年代



■活動範囲

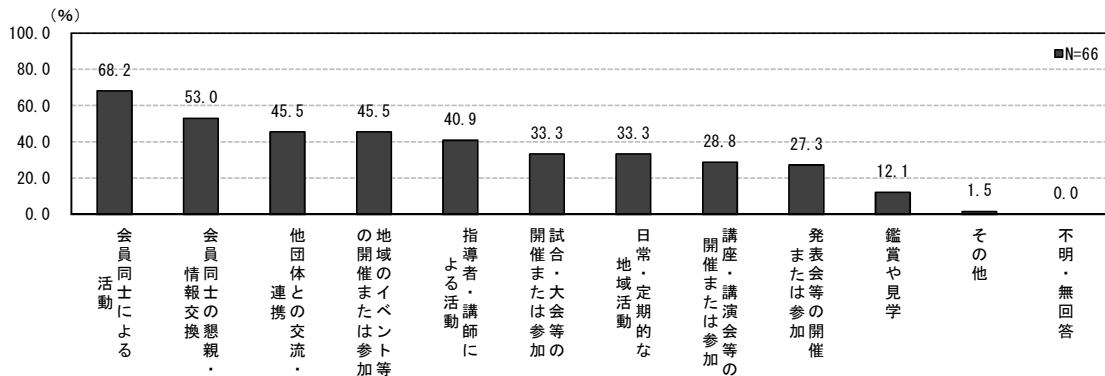


■活動分野



■活動形態

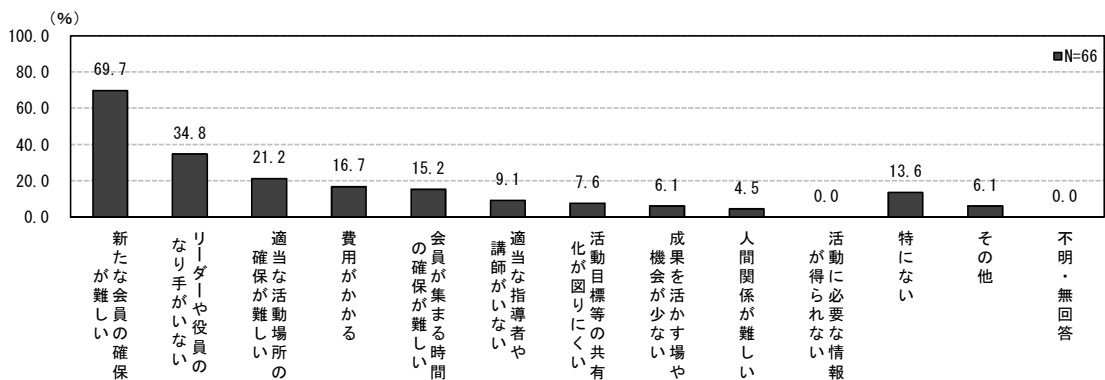
活動形態においては、「会員同士による活動」が 68.2%と最も多く、次いで「会員同士の懇親・情報交換」が 53.0%、「他団体との交流・連携」並びに「地域のイベント等の開催または参加」が 45.5%となっています。



(2) 活動における現状・課題

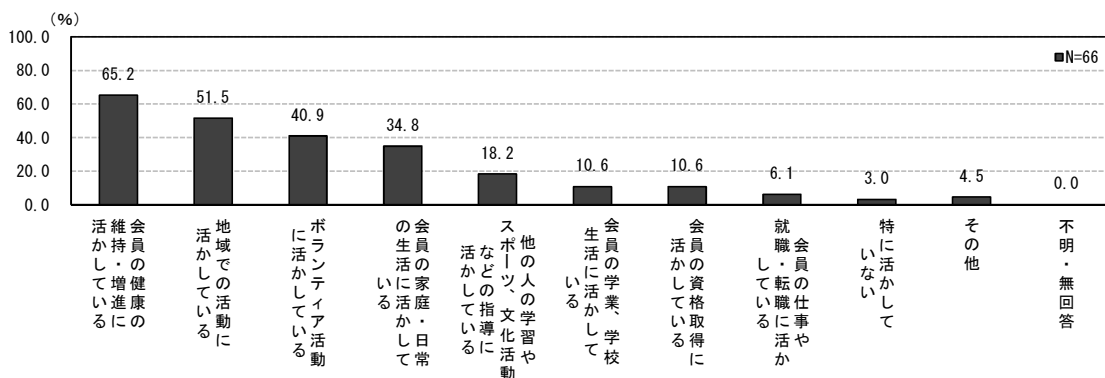
■活動全般における課題

活動全般における課題については、「新たな会員の確保が難しい」が 69.7%と最も多く、次いで「リーダーや役員のなり手がいない」が 34.8%、「適当な活動場所の確保が難しい」が 21.2%となっています。



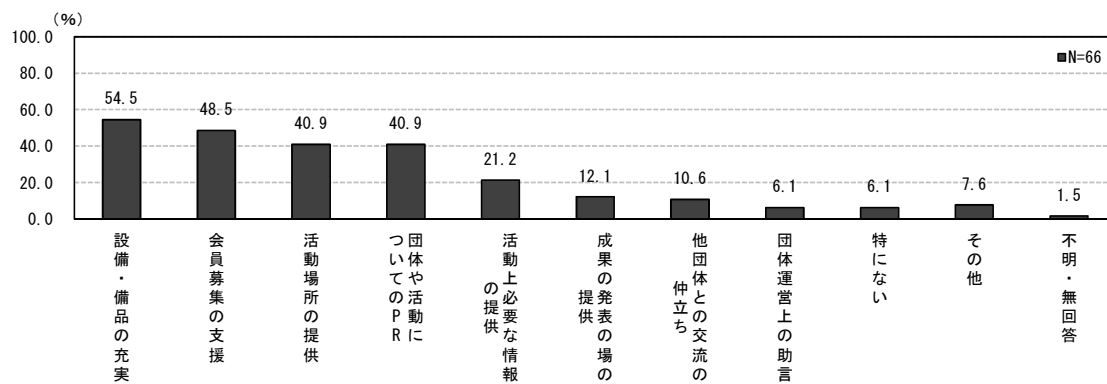
■活動成果を活かしているか

活動の成果を活かしているかについては、「会員の健康の維持・増進に活かしている」が 65.2%と最も多く、次いで「地域での活動に活かしている」が 51.5%、「ボランティア活動に活かしている」が 40.9%となっています。



■活動をしていく上で市に望むこと

活動をしていく上で市に望むことについては、「設備・備品の充実」が54.5%と最も多く、次いで「会員募集の支援」が48.5%、「活動場所の提供」並びに「団体や活動についてのPR」が40.9%となっています。



6. ワークショップからみる生涯学習・スポーツの状況

共通する現状や課題、またその対応策についてグループごとに話し合い、意見をまとめて発表しました。

■ワークショップの概要

実施日時:平成28年9月9日/19時から21時

実施会場:交野市役所 別館3階 中会議室

参加状況:市内生涯学習活動関係団体より53名が参加

実施方法:○グループ分けについて

グループは本計画の6つの基本方針に沿って分類

グループ① 基本的な内容(活動全般等)・自然・環境・歴史(基本方針1及び4)

グループ② 地域・福祉・学校・国際化(基本方針2及び3)

グループ③ 文化・芸術(基本方針5)

グループ④ スポーツ・健康(基本方針6)

○事前課題の設定について

ワークショップに先立って実施した市民・団体アンケートから抽出された課題を基に事前に各グループの議題を2つずつ設定しました。

グループ①

議題(1)効果的な生涯学習活動のきっかけづくり及び情報提供を実現する方法

議題(2)自然環境の維持や地域資源を活かした生涯学習活動の方法

グループ②

議題(1)地域やボランティア活動に対する関心の引き上げについて

議題(2)学校支援活動への取組の拡充について

グループ③

議題(1)青年層に対する文化振興のための具体的な取組みについて

議題(2)団体の高齢化や担い手不足、個人活動への移行の現状について

グループ④

議題(1)個人活動の増加という現状と生涯スポーツの具体的な振興方法について

議題(2)健康とスポーツの関係などの啓発について

■各グループにおける主な発表内容

グループ①基本的な内容(活動全般について)・自然・環境・歴史

課題① 効果的な生涯学習活動のきっかけづくり及び情報提供を実現する方法	
課題② 自然環境の維持や地域資源を活かした生涯学習活動の方法	
視点	主な意見とアイデア
情報提供	○広報の特別号で各団体のPRを行う ○インターネットで「交野市」と検索すると情報量が限られてしまっている ○広報紙に掲載できる情報が限られている ○広報や新聞などでは見やすさを工夫する
活動の内容	○活動場所の提供だけでなく、活動内容のアドバイスをする指導員が必要 ○学校以外の場にも生涯学習活動を広げる ○新しいグループを立ち上げる ○学習して得た知識を実際の自然に応用できるようにする ○里山の保護活動に参加しやすいようなシステムを構築する ○交野の歴史を現地で勉強できる機会を充実させる ○交野のわらべ歌を伝える活動を行う
施設の活用	○植物園やいきものふれあいセンターを活用し、野外での生涯学習活動を充実させる ○交野市立歴史民俗展示室の活用 ○市民活動ルームの活用
青少年の教育	○子どもたちが交野や地域を勉強できる機会の充実 ○交野で歴史を掘り下げた人が子どもたちに伝える ○豊かな自然の中に、特に小さな子どもたちを連れて行く ○子どもたちが交野を知ることができる授業の提案
その他	○インターネットにて講座講習などを案内したり、1か所に情報をまとめて掲示する ○人的ネットワークの紹介

グループ②地域・福祉・学校・国際化

課題① 地域やボランティア活動に対する関心の引き上げについて

視点	主な意見とアイデア
情報提供	○インターネットや広報などによるさらなる周知を行う ○わかりやすい情報発信を工夫する ○ボランティアを広報誌などで紹介する ○活動内容や現状を地域に広めていく
人材	○活動者の中でも特にリーダーの育成が必要 ○各地区にある組織を活かす ○定年された方々を掘りおこすべき
地域や学校の役割	○個人・地域の両面でつながりを強化する ○あいさつ運動を広める ○子どもたちの見守りをする ○小・中・高でボランティア体験をさせる
活動内容	○気がるに話せる場を作る ○子ども向けのボランティア活動を実施する ○活動内容を細分化したり、誰にでもできる活動であることを伝える ○小規模のボランティア活動をすすめる ○幅広い年代へのアプローチを行う ○ボランティア育成のための講座の充実をはかる

課題② 学校支援活動への取組の拡充について

視点	主な意見とアイデア
情報発信	○他校の取組み状況をわかりやすくする ○在校生のいない家庭に活動を知らせる手だてが必要である ○学校からの二つの発信 ○親地の会の活動などを広める ○各学校の広報紙をいろいろな場所で閲覧できるようにする ○学校や地域の学童向けのイベントをさらに広める
学校側の受け入れ	○学校の授業との連携など、学校側の受け入れ態勢を充実させる ○先生方に関心を持ってもらう ○福祉教育でボランティアを活用する
学校と地域のつながり支援活動	○学校と家庭と地域のつながりをもっと密にする ○地域で勉強部屋の創設を行う ○世代間交流の機会を充実させる ○学童の放課後支援を拡充する
その他	○父親・男性がもっと関心をもつようにする ○子どもの見守り活動やあいさつ、声かけ活動への関心を深め、参加者を増加させる ○小学校でのPTA主催行事への全面的支援を続ける

グループ③文化・芸術

課題① 青年層に対する文化振興のための具体的な取組みについて

課題② 団体の高齢化や担い手不足、個人活動への移行の現状について

視点	主な意見とアイデア
行政への要望	○生涯学習と文化振興の定義や交野市の文化振興シナリオを明確にする ○青年層が利用しやすい環境を作る ○エレベーターの設置など活動施設の充実をはかる ○世代ごとに活動にあたっての課題が違う ○1つの団体が長期間取り組んで何かを作ろうとする場がない ○他市にアピールできるような、行政のバックアップ施設の充実 ○会員募集をしやすいするために情報発信を工夫する ○他市などを参考にするべき（福崎町の文化活動、寝屋川市の駅前展示場） ○文化（芸術）に対する行政の理解不足である ○文化祭が10年後になくならないためにも行政からの支援（資金を含む）
青年層への文化振興のための対応	○青年層のニーズを知り、興味を示すような講座を提供する ○学校（校区）を一つのコミュニティとして、結びつきを広げる ○活動を広く知ってもらえるよう、PRをする ○学校の授業に文化を取り入れる ○青少年の音楽サークルの支援を継続する ○文化祭会場や内容の工夫が必要である ○若者が活動しやすい環境を作るべきである ○若者に文化祭に来てもらう工夫をする ○交野のわらべ歌を伝える活動を行う
個人活動への移行理由及び対応	○教育面でも個人の意見を重視する時代背景が原因と考えられる ○ニーズのレベルとサービスのレベルが不一致 ○そもそも青年層が少なくなっている ○年金の受給年齢の引き上げで働かざるを得ない ○興味があっても入って来ても、ひま、時間、余裕がないため参加できない ○年上の意見よりママ友、ネットを優先する傾向がある ○どのような個人活動をしているのかを把握する ○若い人に魅力となるような活動を行う ○団体としての受け入れ態勢の充実をはかる

グループ④スポーツ・健康

課題① 個人活動の増加という現状と生涯スポーツの具体的な振興方法について

課題② 健康とスポーツの関係などの啓発について

視点	主な意見とアイデア
情報提供	○入会をスムーズにするために、各団体の窓口を広げる ○クラブの一覧など、いつ、どこで、何が出来るかの情報提供を工夫する ○活動場所や内容などのPRが必要
施設	○施設利用時間に制限がある ○無料で使用できる施設が欲しい ○スポーツジム関係の費用を安くしてほしい
個人活動の増加について	○若い時から生涯スポーツに取り組める環境が必要である ○若い人達の間関係への意識の希薄化が、個人スポーツの増加の主な理由と考えられる ○体育協会や市の行事などへの制約の関係で団体から抜ける人が多い ○市民ニーズの把握が必要 ○いつでも見学できるようにすることで、団体に入りやすくする ○講習会や体験会の充実
健康とスポーツ	○低年齢からのスポーツ教育を行う ○母子の健康教室や高齢化対策など、年齢にあったスポーツを検討・推進する ○スポーツ医学の教室や専門家の意見を聞く場を充実させる ○幼稚園の保護者・小学校の保護者に対する大会などの充実をはかる
指導者	○指導員の技術や指導力を充実させる ○指導会（体験会）の制度化をはかる ○トップアスリートを育成する ○審判員を育成する ○指導に関してはやはり公認の指導者に教わりたい ○公認・上級の指導者の育成
その他	○ケガ人が出た場合の対応策の充実をはかる ○競技スポーツ、健康スポーツ双方におけるスポーツをするのに必要な基礎に課題がある ○ボランティア団体なので資金確保の方法を考える ○市職員のスポーツ振興に対する意識改革をはかる ○スポーツの啓発にはビックな競技大会が必要 ○競技スポーツ、健康スポーツ、学童スポーツ、学校スポーツの範囲を明確にする

7. 課題のまとめ

「アンケート調査結果などの現状」については、

★（黒星）は市民アンケート調査結果を示し、

☆（白星）は団体アンケート調査結果を示します。

（1）誰もが希望と安心をもって学べる環境の創出

アンケート調査結果などの現状

- ★「過去1年間の生涯学習活動の実施状況」では、『生涯学習をしたことがない』（27.9%）との回答が全国（52.3%）に比べて少なく、全国に比べ多くの市民が健康づくりや趣味など生涯学習に取り組んでいる状況がわかる
- ★「生涯学習を行っていない理由」では、『仕事が忙しくて時間が確保できない』（43.2%）、『きっかけがつかめない』（27.8%）、『費用がかかる』『必要な情報（内容・時間・場所・費用など）がなかなか入手できない』（18.2%）との回答が多く、要因として時間的制約や費用、きっかけ、情報が入手できないことが上位を占める
- ★「活動を行う上で困る点」では、費用、時間的制約や活動場所に関する項目が上位を占める。年代別については、16～39歳が『費用がかかる』（39.8%）、『必要な情報（内容・時間・場所・費用など）がなかなか入手できない』（23.5%）、40～59歳が『仕事が忙しくて活動時間が確保できない』（40.3%）との回答が他の年代と比べて特に多くなっている
- ★年代別における「生涯学習活動に関する情報をどこから得たいか」では、16～39歳と40～59歳が『情報端末やインターネット』（43.7%、43.1%）、『チラシ・ポスター』（31.1%、27.5%）、60歳以上が『広報「かたの」等の刊行物』（84.4%）、『自治会、町内会の回覧や地域住民の連絡』（36.6%）との回答が他の年代と比べて特に多くなっており、世代ごとに情報収集に対するニーズが多様であることがうかがえる
- ★「身に付けた知識・技能の活かし方」では、『地域や社会での活動に活かしている』（14.4%）との回答が、他の項目と比べて少ない
- ★「生涯学習活動をさかんにしていくために市が力を入れるべきこと」では、『情報提供の充実』（46.5%）、『施設の増加』（37.6%）に次いで、『生涯学習を支援する人の育成や配置』（32.5%）との回答が多い
- ☆「活動をしていく上で市に望むこと」では、『設備・備品の充実』（54.5%）、『活動場所の提供』（40.9%）といった活動場所などに関する項目が上位を占める

課題

- 今後さらに「学びたい」と願う市民の誰もが学習に取り組み、始めることができるよう、費用・場所・時間などに配慮した学習機会の提供や、きっかけとなるような気軽に体験できるプログラムの検討、学習活動につながる情報提供・相談体制の充実など、誰もが安心して学ぶことができる環境整備
- 生涯を通じて学び続けることができるよう、行政だけではなく大学・企業・広域などの様々な主体と連携をはかりながら、ライフステージや立場・状況など、市民の多様なニーズに応じた学習機会の充実
- 学びの成果をまちづくりなどに活かすことができる仕組みづくりに向け、活動のコーディネート機能の充実や、成果を評価・発表できる機会の充実

(2) 情（こころ）を育み、確かな学びの実感

アンケート調査結果などの現状

- ★「特に関心のある地域課題に関するテーマ」では、『要介護・要支援高齢者の生活支援』（34.4%）、『まちの防災・防犯』（31.3%）、『環境やゴミ問題』（24.6%）との回答が上位を占める。年代別については、16～39歳が『子育てに関すること』（49.6%）、『子どもの見守りに関すること』（32.6%）、60歳以上が『要介護・要支援高齢者の生活支援』（40.0%）との回答が他の年代と比べて特になくなっている
- ★「将来の交野市像」では、『おもいやりや福祉』（13.4%）との回答が、平成2年（12.6%）に比べても関心度は低い
- ★「地域・ボランティア・老人クラブ活動などに参加しない理由」では、『関心や興味がない』（20.5%）との回答が、平成2年（13.9%）に比べ多い
- ★「グローバル人材育成のために必要な教育」では、『語学力・コミュニケーション能力』（74.4%）との回答が最も多い

課題

- 福祉、人権、環境問題などの多様な現代社会の課題を知り、身近な暮らしと結び付け、市民の主体的な行動を生み出すことができるよう、現代社会の課題に即した学習機会の充実
- 地球規模での人間の営み（グローバル社会）が進展し、多様な文化と関わる中で、単なる外国語力（英語力）の養成だけではなく、異なる価値観を持つ人たちの中で、意見の違いを統合してみんなの知力の質を高める能力（グローバル・コミュニケーション能力）の習得
- 国際化への理解を深める学習機会の充実

（３）誰もが集い、地域みんなで子どもたちを支える学校の実現

アンケート調査結果などの現状

- ★「学校を支援する活動」では、『今後も参加したい』（12.9%）との回答が、全国（24.0%）に比べて大幅に少ない。年代別については、高齢層が『今後も参加したい』（5.6%）と『今後は参加してみたい』（20.7%）を合わせた回答が他の年代と比べて少なくなっており、高齢層において活動意欲のある人が少ないことがうかがえる
- ★「子どもたちの地域参加が有意義かどうか」では、『有意義』との回答が9割以上を占める
- ★「過去1年の子どもの生涯学習活動の状況（地域活動）」では『こども会』（61.7%）、『ボランティア活動』（74.2%）、『イベント参加』（53.9%）のいずれにおいても『参加なし』との回答が5割以上を占める

課題

- 特に働いている世代を含む、誰もが参加しやすい交流機会の充実をはかり、生涯学習やスポーツを通じた人や地域とのつながりや、仲間づくりの推進
- 地域の人材を活用した学習機会の充実など、地域と学校、さらには就学前の教育・保育との連携・協働により、地域全体で子どもたちを育む意識の醸成、仕組みづくりの推進

（４）自然と歴史を通じたまちの発見

アンケート調査結果などの現状

- ★「過去1年間の生涯学習活動の実施状況」では、『自然体験や生活体験などの体験活動』（2.8%）との回答が少ない
- ★「将来の交野市像」では、『自然環境が豊か』（63.4%）との回答が最も多く、平成2年（70.6%）に比べても高い比率を維持する一方、『伝統や歴史』（3.8%）との回答が少ない
- ★「交野市への定住意向」では、『住み続けたい』との回答が7割以上を占める

課題

- 交野市に「住みたい」「住み続けたい」という意識を醸成し、主体的にまちづくりに取り組む担い手を育成するためにも、自然、歴史・文化などの市の地域資源を活かした学習機会など、郷土の愛着・誇りを育む学習機会の充実
- 今後特に、文化の振興を担う人材の育成につなげるためにも、子どもたちへの自然を活用した教育や、文化・芸術に親しむ機会の充実を通じて、子どもの豊かな感性や情操の育成

(5) 生涯を通じた文化の振興

アンケート調査結果などの現状

- ★「過去1年間の生涯学習活動の実施状況」では、『趣味的なもの』(29.6%)、『教養的なもの』(16.8%)のどちらの回答も全国に比べて多い。年代別については、現役世代が『生涯学習をしたことがない』(35.3%)との回答が他の年代と比べて特に多くなっている
- ★「生涯学習活動の形態」では、『スポーツクラブなど民間の講座や教室』(36.2%)との回答が全国(29.6%)と比べて多い
- ★「過去1年間の子どもの生涯学習の実施状況(文化・教養・芸術)」では、『芸術(音楽・美術・バレエなど)』への参加頻度が、『読書』『学習塾』『習い事』に比べて少ない
- ☆平成3年以降の「文化連盟への登録者数」は、平成11年(2,643人)をピークに減少傾向をたどっている
- ☆「活動全般における課題」では、『新たな会員の確保が難しい』(69.7%)、『リーダーや役員のなり手がいない』(34.8%)との回答が多く、人材面の課題が上位を占める
- ☆「活動をしていく上で市に望むこと」では、『会員募集の支援』(48.5%)、『団体や活動についてのPR』(40.9%)との回答が多い

課題

- 文化芸術に関する鑑賞事業など、全ての市民が生涯を通して文化芸術に触れ、親しむことができる機会の充実
- 市民が主体的に文化芸術活動に取り組むことができるよう、活動の継続・活性化をはかるため、担い手の確保や活動を支援するボランティアや活動を牽引する人材の発掘、育成



(6) 生涯を通じたスポーツの振興

アンケート調査結果などの現状

- ★「過去1年間の生涯学習の実施状況」では、『健康づくり・スポーツ』(38.1%)との回答が全国(21.0%)に比べて多い。また「今後の生涯学習活動への意向」でも、『健康・スポーツ』(48.5%)との回答が2番目に多く、市民のスポーツやレクリエーションに関する生涯学習への参加意向が高いことがうかがえる
- ★年代別における「スポーツサークルなどの不参加理由」では、16～39歳が『知らない』(33.6%)、『関心や興味がない』(30.0%)、40～59歳が『時間が合わない』(24.9%)、『忙しくて時間がないから』(30.1%)、60歳以上が『体力的に無理だから』(25.0%)との回答が他の年代と比べて特になくなっており、世代ごとに抱えている課題が多様であることがうかがえる
- ☆平成3年以降の「体育協会への登録者数」は、平成12年(5,253人)をピークに減少傾向をたどっている
- ☆スポーツ・文化とも市民の活動状況が10ポイント以上増加しているが、各団体の登録者は大幅に減少している。要因として団体登録者の高齢化による脱退と、スポーツクラブやカルチャーセンターなど個人活動へのニーズの変化が考えられる
- ☆「活動成果を活かしているか」では、スポーツ・健康分野の団体は『他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に活かしている』(26.9%)との回答が特に多いことから、「共に学び合う」という特性が強いことがうかがえる
- ☆「活動全般における課題」では、スポーツ・健康分野の団体は『適当な活動場所の確保が難しい』(46.2%)との回答が特に多い
- ☆「活動をしていく上で市に望むこと」では、スポーツ・健康分野の団体は『活動場所の提供』(61.5%)、『設備・備品の充実』(69.2%)との回答が特に多い

課題

- ニーズや特性を踏まえ、より多くの人に参加できる機会や場づくりとして、健康づくりに関するテーマの学習機会や交流機会の充実
- 市民一人ひとりが心も体も健康で豊かな暮らしを送ることができるよう、生涯を通じたスポーツの振興
- 市民が主体的にスポーツ・レクリエーション活動に取り組むことができるよう、活動に必要な場所や設備への支援

交野市生涯学習基本計画

第3章 計画の基本的な考え方

第4章 計画の推進施策

第5章 計画の推進体制と進捗管理

第3章 計画の基本的な考え方

1. 基本理念

みんなが学び輝くまち かたの

市民の主体的な学習により、生きがいや自己実現、地域の絆づくりなど、みんなの人生の充実につながるまちをめざします。

市民のだれもが生涯を通じて文化・スポーツ活動に親しみ、みんなが心も体も健康で豊かに暮らせるまちをめざします。

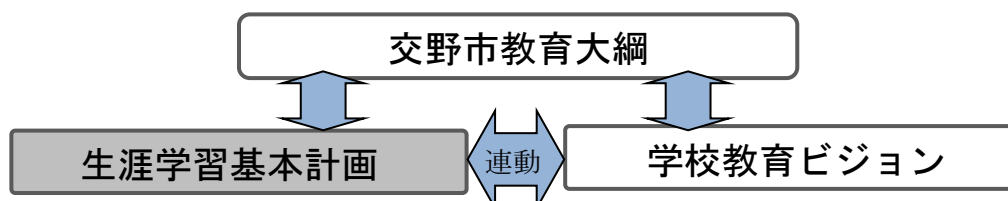
市民が共に学び合い、活動を支え合うことで、学びが広がり、循環していきます。こうした学びの循環により、市民一人ひとりの力を集結し大きな力を生み出すことで、輝き続けるまちをめざします。

2. 基本方針

計画の基本方針は、本市の教育、学術及び文化の振興に係る施策の根本となる「交野市教育大綱」の6つの基本方針に基づきます。

1. 誰もが希望と安心をもって学べる環境の創出
2. 情（こころ）を育み、確かな学びの実感
3. 質の高い教育環境の整備
4. 誰もが集い、地域 みんなで子どもたちを支える学校の実現
5. 自然と歴史を通じたまちの発見
6. 生涯を通じたスポーツ・文化の振興

なお、6つの基本方針の内、「3. 質の高い教育環境の整備」については、「教育基本法」第17条第1項に規定される教育振興計画の「交野市学校教育ビジョン」に位置付けるものとし、「6. 生涯を通じたスポーツ・文化の振興」においては、スポーツと文化の2つの柱に分け、基本方針を定めます。



基本方針1

誰もが希望と安心をもって学べる環境の創出

市民が、生涯学習に「希望」と「安心」を持って取り組むことができるよう、市民のライフステージや生活環境に合わせた情報提供や相談体制を充実します。

市民が、主体的に学びの成果をまちづくりに活かすことができる仕組みづくりや、生涯学習に取り組む個人・団体の活動を支援します。また、活動のコーディネート機能や成果を発表する機会の充実をはかります。

生涯学習に係る施設の見直しについては、「公共施設等総合管理計画」との整合をはかりつつ、検討します。

参考：学校教育ビジョンにおける主な施策

「新しい学び」の創造

障がいのある子どもの自立への支援（支援教育）

教職員の資質・能力向上（授業力、人材育成）

学校運営体制の確立

基本方針2

情（こころ）を育み、確かな学びの実感

市民が、福祉、人権、環境問題などの現代社会の多様な課題を知り、身近な暮らしと結び付け、主体的に課題解決ができるよう、課題に即した学習機会や情報提供を行います。

多様な文化や異なる価値観を認め合い、共に生き、学んでいる確かな実感を高める施策、例えばグローバルコミュニケーションの学習やボランティア活動を推進します。

参考：学校教育ビジョンにおける主な施策

夢と志を育む教育の充実（道徳・人権等）

生徒指導の充実

読書活動の推進

障がいのある子どもの自立への支援（ともに学ぶ）

基本方針3

誰もが集い、地域 みんなで子どもたちを支える学校の実現

市民の生涯学習やスポーツを通じた人や地域とのつながり、仲間づくりを促進します。

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、連携・協力を求め、一体となって子どもたちを育む仕組みづくりをすすめます。

地域における様々な人々の協力を得て、学校を核としながら、共に学び合い、共に高め合う新たなコミュニティの形成をはかります。

参考：学校教育ビジョンにおける主な施策

子どもの安全確保と危機管理体制の充実（学校・家庭・地域）

連携・連続した学びの実現（校種・地域間連携等）

教育コミュニティの形成と家庭教育支援

基本方針4**自然と歴史を通じたまちの発見**

交野の自然や歴史、文化に親しむことで、やすらぎや感動を得るとともに、「ふるさと交野」への誇りと愛着を育むことができるよう、交野の自然や歴史・文化資源を活用した魅力ある学習の機会や情報提供を行います。

参考：学校教育ビジョンにおける主な施策
「新しい学び」の創造（教育課程等）

基本方針5**生涯を通じた文化の振興**

市民が文化芸術に触れ、親しむことができる機会や情報の提供を行います。

市民が、主体的に文化芸術活動に取り組むことができるよう、活動を支援するボランティアや活動を牽引するリーダーの発掘、育成などの支援を行います。

参考：学校教育ビジョンにおける主な施策
「新しい学び」の創造（教育課程等） 読書活動の推進

基本方針6**生涯を通じたスポーツの振興**

市民が心も体も健康で豊かな暮らしを送ることができるよう生涯スポーツの機会や情報提供を行います。

市民の健康づくりに関するテーマの学習機会の充実をはかります。

市民のスポーツ活動のための場所や設備・備品などを支援します。

参考：学校教育ビジョンにおける主な施策
健やかな体の育み（健康教育）

3. 施策体系

大綱 理念	計画 理念	教育大綱基本方針 計 画 目 標	生涯学習基本計画に係る施策目標
「教育百年の森」生きる力を養い多様性に富んだ人材の育成	みんなが学び輝くまち かたの	1.誰もが希望と安心をもって学べる環境の創出	1-1. 生涯学習に関する情報収集と発信
			1-2. 市民ニーズやライフステージに応じた学習機会の提供
			1-3. 学びの成果を活かせる仕組みづくり
			1-4. 生涯学習関連施設の活用と整備
		2.情（こころ）を育み、確かな学びの実感	2-1. 人間の尊厳と共生に向けた啓発と学習
			2-2. 暮らしの安全・安心を守る学習機会の充実
			2-3. 地域活動・ボランティア活動の促進
		3.誰もが集い、地域のみんなで子どもたちを支える学校の実現	3-1. 学校・家庭・地域の交流とネットワークづくり
			3-2. 地域における異年齢間の交流促進
			3-3. 学校を中心とした地域人材の発掘・育成と活用の促進
			3-4. 子ども・青少年の「生きる力」を育てる場づくり
		4.自然と歴史を通じたまちの発見	4-1. 交野の自然保護と活用
			4-2. 交野の歴史文化の発見と発信
			4-3. 交野の文化財・伝統文化の継承
		5.生涯を通じた文化の振興	5-1. 生涯を通じた文化活動の促進
			5-2. 文化芸術に触れ、親しむ機会の提供
		6.生涯を通じたスポーツの振興	6-1. 生涯を通じたスポーツ活動の促進
			6-2. 健康寿命の延伸に向けたスポーツと健康教育
			6-3. 地域における生涯スポーツの振興

第4章 計画の推進施策

基本方針1

誰もが希望と安心をもって学べる環境の創出

市民が、生涯学習に「希望」と「安心」を持って取り組むことができるよう、市民のライフステージや生活環境に合わせた情報提供や相談体制を充実します。

市民が、主体的に学びの成果をまちづくりに活かすことができる仕組みづくりや、生涯学習に取り組む個人・団体の活動を支援します。また、活動のコーディネート機能や成果を発表する機会の充実をはかります。

生涯学習に係る施設の見直しについては、「公共施設等総合管理計画」との整合をはかりつつ、検討します。

施策目標1-1

生涯学習に関する情報収集と発信

生涯学習をすすめる上で必要な最新の情報をいつでも入手できるような情報提供の仕組みを構築します。

現状分析	- 調査対象者となった市民の69.8%が過去1年間に何らかの生涯学習活動に取り組んでおり、また『生涯学習をしたことがない』と回答した市民は27.9%と全国調査(52.3%)に比べても少なく、全国より健康づくりや趣味などに取り組んでいる市民の割合が多くなっています。 「生涯学習活動を行っていない理由」、「生涯学習活動を行う上で困る点」のいずれにおいても、『必要な情報がなかなか入手できない』と回答した市民はそれぞれ18.2%、16.6%となっています。 「生涯学習活動をさかんにしていくために市が力を入れるべきこと」のうち、『情報提供の充実』(46.5%)との回答が最も多くなっています。
意見	「図書館について、場所や利用方法などアピールしてほしい」(市民アンケート) 「市民に対し、定期的に案内を出し伝えるべき」(市民アンケート) 「インターネットで『交野市』と検索すると情報が限られてしまっている」(ワークショップ)
今後の方向性	必要な情報が入手できない市民や活動のきっかけがつかめない市民のために相談窓口を設けます。また、民間団体からも生涯学習に関する情報を収集し、発信に努めます。

※備考欄の「新規」は平成29年度より新たに取り組む事業を、

「重点」はすでに実施している事業のうち、重点的に取り組む事業を、

「既存」はすでに実施している事業をそれぞれ示します。

事業名	内容	所管	備考
相談体制の充実	生涯学習に関する相談窓口の設置 地域における生涯学習事業への支援や活動の情報などの提供	生涯学習担当	新規
生涯学習マップの作成等	生涯学習関連施設や情報を掲載した生涯学習マップの作成やホームページの充実	生涯学習担当	新規
図書館資料の収集・提供	利用者の多様なニーズに応えるための資料の収集・提供	生涯学習担当	既存
図書館情報ネットワークシステムの充実	図書館情報ネットワークシステムの充実	生涯学習担当	既存
図書館利用窓口の充実	図書館（室）・移動図書館の効率的、効果的な運営	生涯学習担当	既存
市民活動ネットワーク「わいわいネット※」の運営支援	市、市民活動団体、NPO※法人などの団体間の情報交換の場づくり及び協働に向けた取り組みの促進	地域振興担当	既存
市民活動団体等情報登録制度	市民活動に関する情報を収集し公開することによって、市民活動団体相互の連携、行政と市民活動団体との協働の促進	地域振興担当	既存

施策目標 1-2

市民ニーズやライフステージに応じた学習機会の提供

全ての市民が生涯を通じて学習に取り組むことができるよう、市民の一人ひとりのニーズやライフステージに応じた学習機会を提供します。

現状分析	「生涯学習活動を行っていない理由」のうち、『仕事が忙しくて時間が確保できない』（43.2%）との回答が最も多くなっています。 「生涯学習活動を行う上で困る点」として、『費用がかかる』との回答が28.3%となっています。 「地域・ボランティア・老人クラブ活動などに参加しない理由」では『関心や興味がない』（20.5%）との回答が最も多くなっています。
意見	「自宅の近くに、活動できる場が欲しい」（市民アンケート） 「仕事をしている者でも、参加しやすい時間帯があればと思う」（市民アンケート） 「パソコンやインターネットに関する学習機会を充実させてほしい」（市民アンケート）
方向性の	乳幼児期から高齢期までライフステージに応じた学習機会を充実するために、各期の学習内容の充実はもちろんのこと、学習の時間帯や場所など、それぞれの状況に配慮した学習機会の提供をはかります。

事業名	内容	所管	備考
体育教室の運営	体育教室の実施 （重点）若者や現役世代が参加しやすい実施形態をめざす	生涯学習担当	重点
文化教室の運営	文化教室及び生涯学習講座の実施 （重点）若者や現役世代が参加しやすい実施形態をめざす	生涯学習担当	重点

事業名	内容	所管	備考
まちの図書館化事業	市内施設等に図書館のリサイクル本を置く	生涯学習担当	既存
シルバー人材センター事業支援	高齢者の労働意欲と能力の活用、生きがいの充実、社会参加の促進事業の支援	福祉担当	既存
老人クラブ活動支援	老人クラブの発展と高齢者福祉の活動の支援	福祉担当	既存
自発的活動支援事業	障がいがある人の社会的障壁を除去・軽減するための地域における自発的な取り組みに対する支援	福祉担当	既存
創業支援事業	地域の創業支援機関と連携し、創業希望者を支援	地域振興担当	既存
就労支援事業	就労支援相談員によるきめ細かな相談、就労支援セミナーの開催	労働担当	既存

施策目標 1-3

学びの成果を活かせる仕組みづくり

生涯学習活動により身に付けた知識や技能を発表できる場を設けます。

分現 析状	「生涯学習で身に付けた知識・技能の活かし方」では、『自分の人生がより豊かになっている』『自分の健康を維持・増進している』との回答がそれぞれ5割を超えており、自身の人生や健康の維持・増進を目的に生涯学習に取り組んでいる人が多いことがうかがえます。
意主 見な	「活躍の場を作り出す施策があれば生きがいを感じ、能力を発揮することが共生となる」（市民アンケート） 「地域行事で学ぶことが地域交流の入り口にもなり、豊かなまちづくりになる」（市民アンケート）
方今 向後 性の	市民一人ひとりが学んで身に付けた成果を、教え合ったり、支え合ったりする活動や、地域活動・ボランティア活動などに活かし、学びの循環を生むことができるよう、その仕組みづくりに取り組みます。

事業名	内容	所管	備考
文化祭の開催 (生涯学習フェスティバル)	「未来につなごう交野の文化」を継続テーマとし、多くの市民に交野の文化芸術活動の継承をはかる (重点)若者や現役世代が参加しやすいフェスティバルをめざす	生涯学習担当	重点
市民スポーツデーの開催	秋季に市内で各種スポーツに親しむ機会を提供 (重点)子どもから高齢者までの幅広い市民が参加しやすい実施形態をめざす	生涯学習担当	重点
健康福祉フェスティバル	交野市内の健康・福祉増進のため関係団体などが展示などを実施	福祉健康担当	既存
環境フェスティバル	交野市内の環境保護活動のための関係団体などが展示などを実施	環境担当	既存
老人福祉大会の開催	星友クラブ連合会との共催で開催	福祉担当	既存

施策目標 1-4

生涯学習関連施設の活用と整備

生涯学習に係る施設の活用と整備については、現状での環境整備とともに、将来に向けた公共施設の集約や複合化について位置付ける「公共施設等総合管理計画」及び学校規模の適正化の中で検討します。

現状分析	・生涯学習の拠点施設である青年の家の老朽化がすすんでいます。 ・図書館の整備計画は凍結されています。 ・学校施設の老朽化がすすんでいます。
意見	・「活動に必要な場所や設備・備品の充実」（団体アンケート） ・「施設利用時間の制限がある」（ワークショップ） ・「無料で使用できる施設が欲しい」（ワークショップ） ・「スポーツジム関係の費用を安くして欲しい」（ワークショップ）
今後の方向性	文化・スポーツ施設の整備については、老朽化や環境整備（エレベーター設置など）への対応、多様化する市民ニーズへの対応、青少年の活動の場としての対応などの課題があります。将来に向けては、市民のニーズを適宜把握し、学習機会や情報提供の充実をはかり、施設の利用促進をはかります。生涯学習施設の活用に向けた取り組みについては、人口減少と財政的な制約のもと、現状施設の環境整備とともに市民の利便性を考慮しながら、施設の集約とともに複合化やコンパクトシティに適した施設整備を検討します。 図書館・室については、他の公共施設との複合化及びインターネットなどの多様なサービス提供方法による効率的な再配置とともに、図書館サービスの地域間における公平性を考慮しつつ施設の配置をめざします。 また、図書館運営については、子ども読書活動推進計画や学校図書館との連携はもとより、社会情勢や市民ニーズを把握し、地域の生涯学習の拠点施設として「市民が利用しやすく、利用したくなる図書館・室運営」をめざします。

事業名	内容	所管	備考
文化・スポーツ施設の運営	青年の家、総合体育施設、星田西体育施設、星の里いわふね、私部・倉治公園グラウンド、教育文化会館の運営	生涯学習担当	既存
図書館・図書室の運営	倉治図書館、青年の家図書室、星田コミュニティセンター図書室、第1児童センター図書室、移動図書館の運営	生涯学習担当	既存
学校規模の適正化	少子化や学校の老朽化への対応は、公共施設の再配置と合わせて学校規模の適正化をはかる	学校教育担当	新規
公共施設等総合管理計画	公共施設の老朽化への対応や人口減少から、コンパクトシティを標榜した再配置の計画	企画財政担当 営繕担当 施設所管担当	新規
拠点施設の整備充実（福祉）	世代間交流センター、ボランティアセンター、高齢者生きがい創造センターの管理・運営	福祉担当	既存

基本方針2

情（こころ）を育み、確かな学びの実感

市民が、福祉、人権、環境問題などの現代社会の多様な課題を知り、身近な暮らしと結び付け、主体的に課題解決ができるよう、課題に即した学習機会や情報提供を行います。

多様な文化や異なる価値観を認め合い、共に生き、学んでいる確かな実感を高める施策、例えばグローバルコミュニケーションの学習やボランティア活動を推進します。

施策目標2-1

人間の尊厳と共生に向けた啓発と学習

人権に関する啓発や学習機会の提供を通じ、市民の誰もが学べる環境づくりに取り組むことで、人権を尊重する意識の醸成や態度の向上をはかります。

現状分析	・特に関心のある地域課題のうち、『障がい者の生活支援及び共生』（10.9%）、『外国人市民との交流と理解』（5.6%）、『性的少数者の理解』（1.5%）など、共生社会に関するテーマへの関心を持つとの回答は相対的に少なくなっています。 ・グローバル人材育成に必要な教育では、『異文化理解の精神』（34.2%）、『国際社会の動向などについての幅広い教養』（26.7%）で全国調査（それぞれ40.5%、41.3%）を下回っています。
意見	・「人に対する思いやりや、地域の大切さを知らせる」（市民アンケート） ・「認知症への対応などを定期的に行ってほしい」（市民アンケート）
今後の方向性	女性、子ども、障がいのある人、高齢者、外国人、性的少数者などを含む多様な人々の人権に関する学習機会の充実をはかります。また障がいのある人との交流や国際交流などの事業を充実し、他者とのふれ合いの中で多様な価値観を認め合う意識の醸成をはかります。

事業名	内容	所管	備考
日本語教室「学びの場」の開催	外国人などの日本語学習を必要とする人々に対する学習機会の提供 （重点）HP の充実などにより、教室の認知度の向上をはかる	生涯学習担当	重点
障がい者団体の活動支援	障がい者などの日常生活と社会参加を支援する	福祉担当	既存
理解促進研修・啓発事業	障がい者などに対する理解を深める	福祉担当	既存
国際交流事業	カナダのコリングウッド市との交流や市民の国際感覚を高める活動	地域振興担当	既存
人権啓発活動	人権に係る団体への支援	人権政策担当	既存
平和と人権を守る都市への取り組み	「平和と人権を守る都市宣言」を進める実行委員会への支援	人権政策担当	既存

施策目標2-2

暮らしの安全・安心を守る学習機会の充実

安全・安心に暮らせるように、啓発や学習機会の提供を通じて、市民の防災・防犯・交通及び消費者トラブルなどの意識の向上をはかるとともに、市民の主体的な活動を支援します。

分現 析状	・特に関心のある地域課題として、『要介護・要支援高齢者の生活支援』（34.4%）、『まちの防災・防犯』（31.3%）、『環境やゴミ問題』（24.6%）の順で多くなっています。
意主 見な	・「災害時の対応や仕方などを学べるプログラムを望む」（市民アンケート） ・「子どもたちが自転車マナーを学ぶ機会をつくり、講習者にはシールなどを配布する」（市民アンケート） ・「地域で子どもや独居高齢者の見守りなどをしていける仕組みや組織があるとよい」（市民アンケート）
方今 向後 性の	市民が安全・安心な生活を送るため、防災・防犯や交通安全などの学習機会の充実をはかります。また高度情報化社会の進展などに伴う、インターネット上の詐欺や消費者問題などの新たな課題に対する啓発や学習機会を提供します。

事業名	内容	所管	備考
避難行動要支援者※支援事業	地域における要支援者支援体制の構築	福祉担当	既存
消費生活情報提供	消費生活情報の提供及び啓発活動	消費生活担当	既存
消費者団体活動の支援	消費者団体の自主的な活動の促進	消費生活担当	既存
市防災計画の推進	地域も含めた市全体の防災計画、地域防災計画の改訂及び国民保護計画の総合的・計画的な推進	防犯・防災担当	既存
交通安全意識の普及、啓発	各種交通安全教室や運動などの事業の実施	防犯・防災担当	既存
防犯活動事業補助及び意識啓発	関係団体の事業費を補助並びに防犯教室及び各種凶防犯運動などの事業実施により防犯意識啓発と地域防犯活動の活性化をはかる	防犯・防災担当	既存



施策目標2—3

地域活動・ボランティア活動の促進

地域活動・ボランティア活動の活性化に向け、市民参加のきっかけづくりを行うとともに、担い手の確保に向けた情報提供・PR など、地域活動・ボランティア活動団体への支援を行います。

現状分析	- 生涯学習で身に付けた知識・技能を「地域や社会での活動に活かしている」市民は14.4%にとどまっています。 - 地域・ボランティア・老人クラブ活動などへの不参加の理由で、「関心や興味がない」(20.5%)との回答が、平成2年調査(13.9%)と比べ増加しています。
意見	「生涯学習で学んだことを、ボランティア活動で活かしたいと思う」(市民アンケート) 「高齢者ばかりが活動している。40、50歳代がいろいろ参加し、市を盛り上げてほしい」(市民アンケート) 「活動意欲はあるが、人間関係を考えると仲間に入れない気がする」(市民アンケート) 「行政はボランティア活動に理解を示してほしい。施設などの無償貸与や協力など」(市民アンケート)
方向性の	社会や地域のニーズに応じた学習機会を提供し、地域活動・ボランティア活動への参加のきっかけづくりを行います。さらに地域・ボランティア活動などに取り組む市民を増やすため、市民活動団体などの活動に関する情報提供・PRを行います。

事業名	内容	所管	備考
地域学校協働活動	コーディネート機能の強化や幅広い層の地域住民の参画など、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの成長を支えていく取り組み (重点) コーディネート機能を充実させた「地域学校協働本部」の設置をめざす	生涯学習担当	重点
図書ボランティアとの協働	図書館におけるボランティア活動を支援し、連携・協働をはかる	生涯学習担当	既存
小地域ネットワーク活動※	地域を単位とした住民主体の地域福祉活動	福祉担当	既存
あいさつ運動	日頃の挨拶などを通じて、地域において顔が見える関係をつくり、住民同士、身近なつながりを深める	福祉担当	既存
自治組織の充実	地域コミュニティ活動の活性化とその連携・ネットワーク化の推進及び活動の支援	地域振興担当	既存

基本方針3**誰もが集い、地域みんなで子どもたちを支える学校の実現**

市民の生涯学習やスポーツを通じた人や地域とのつながり、仲間づくりを促進します。

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、連携・協力を求め、一体となって子どもたちを育む仕組みづくりをすすめます。

地域における様々な人々の協力を得て、学校を核としながら、共に学び合い、共に高め合う新たなコミュニティの形成をはかります。

施策目標3-1**学校・家庭・地域の交流とネットワークづくり**

学校や家庭、地域などにおける交流機会や情報交換の場づくりなどのネットワークを構築します。

分 現 状	子どもたちの地域参加が有意義であるとする回答は、90.9%（「思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）となっていますが、「思う」という積極的な回答だけをみると、全国調査（76.3%）に比べ、今回調査（59.3%）は少なくなっています。
意 主 見 な	「防災についての研修などを行い地域で避難訓練を行うなど、子どもたちを巻き込んで、実行できたらよい」（市民アンケート） 「大きな力ではなく、小さな力のカタマリで大きな活動になればいいと思う。身近な場所で肩に力を入れず参加したい。コツコツが一番！小さな力の積み重ねが大きく成長していく」（市民アンケート）
方 今 向 後 性 の	学校や家庭、地域などとの連携・協働による取り組みをすすめるため、交流機会や情報交換の場づくりを行い、地域で子どもたちを育む意識を高めます。 特に地域と学校との連携・協働については、登下校の見守り、授業補助など、学校を支援する「学校支援地域本部※」によって運営されていますが、今後コーディネート機能などを一層充実させた「地域学校協働本部」の設置を見据え、体制整備をはかります。

事業名	内容	所管	備考
家庭教育の充実	保護者を対象とした家庭教育学級などの親学び講座 （重点）中学生を対象とした親学習講座の実施	生涯学習担当	重点
地域学校協働活動 【再掲】	コーディネート機能の強化や幅広い層の地域住民の参画など、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの成長を支えていく取組み （重点）コーディネート機能を充実させた「地域学校協働本部」の設置をめざす	生涯学習担当	重点

事業名	内容	所管	備考
乳幼児健康教育・相談事業	月齢に対応した教室や相談会を開催	健康増進担当	既存
わくわく子育て教室	幼稚園を資源活用した子育てに関する体験学習、親学習啓発等を、関係機関と連携し実施。地域に一層親しまれる幼稚園をめざす。	子育て支援担当	既存
児童と家庭への支援の充実	育児不安などを抱えている家庭への訪問支援など	子育て支援担当	既存
子育てサークル、ネットワーク事業	地域の子育て支援活動を支援	子育て支援担当	既存

施策目標 3-2

地域における異年齢間の交流促進

地域が一体となって子どもたちを育むことができるよう、地域コミュニティの再形成に向け、子どもから高齢者までの世代間の積極的な交流促進をはかります。

分現 析状	・特に関心のある地域課題として、『要介護・要支援高齢者の生活支援』（34.4%）、『まちの防災・防犯』（31.1%）、『環境やゴミ問題』（24.6%）、『地域のまちづくり』（22.1%）、『住民同士の助け合いや地域交流』（21.0%）の順で回答が多くなっています。
意主 見な	・「住民同士が共に思いやれる、また子どもたちを地域で育てていける市になってほしい」（市民アンケート） ・「個人・地域の両面でつながりを強化する」（ワークショップ） ・「世代間交流の機会を充実させる」（ワークショップ）
方今 向後 性の	地域における学習活動やスポーツ活動を通じて、就労者や育児中の人、高齢者や障がいのある人など、誰もが参加しやすい交流機会の充実をはかります。

事業名	内容	所管	備考
地域子育て支援拠点事業等	子育て親子交流・相談・情報提供、助言など	子育て支援担当	既存
「アリス」の部屋の開放	ボランティアセンターの協力を得て、0～3歳児の子どもと保護者に部屋と園庭を開放	機能支援担当	既存
小地域ネットワーク活動【再掲】	地域を単位とした住民主体の地域福祉活動	福祉担当	既存
移住・定住促進事業	三世代同居・近居に係る補助事業事務	都市整備担当	既存

施策目標3-3

学校を中心とした地域人材の発掘・育成と活用の促進

学校教育や家庭教育などの場において、地域人材の積極的な活用を促進し、子どもたちを取り巻く教育環境の充実をはかります。

分現 析状	学校支援活動への参加経験・意思について、『参加したことがあり、今後も参加したい』（12.9%）との回答が全国調査（24.0%）に比べ大幅に少なくなっています。
意主 見な	「地域のなかで専門的な知識や経験を持つ人材を、生涯学習の場で活かす取り組みを行ってほしい」（市民アンケート） 「生涯学習を通じて、新たに指導者となる人材を育成してほしい」（市民アンケート） 「保護者にも注意できる指導員が必要ではないか」（市民アンケート） 「学校と家庭と地域のつながりをもっと密にする」（ワークショップ）
方今 向後の 性の	学校におけるキャリア教育※や環境教育などの授業において、講師として地域人材を積極的に活用していきます。学校支援活動をはじめ、部活動や放課後の子どもの居場所づくり、土日の教育活動、家庭教育支援活動などにおいて、地域人材の力が必要とされていることを周知し、市民への啓発を行っていきます。

事業名	内容	所管	備考
地域学校協働活動【再掲】	コーディネート機能の強化や幅広い層の地域住民の参画など、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの成長を支えていく取組み（重点）コーディネート機能を充実させた「地域学校協働本部」の設置をめざす	生涯学習担当	重点
子ども安全見守り	子どもを犯罪やいたずらから守る活動 青色防犯パトロール、こども110番	生涯学習担当	既存
放課後子ども教室推進事業	放課後の児童の居場所づくり 市内10小学校を対象に開催	生涯学習担当	既存
相談・指導体制の充実	青少年に関する情報交換及び体制の充実 青少年指導員や子ども会育成連絡協議会など	生涯学習担当	既存
放課後児童会	保護者が労働などにより昼間保護者の保護を受けられない児童を対象に、その安全を確保し適切な遊びと生活の場を提供	生涯学習担当	既存



施策目標3-4

子ども・青少年の「生きる力」を育てる場づくり

地域における体験活動や交流機会などへの子ども・青少年の参加促進を通じて、豊かな人間性や健全な心身の育成など「生きる力」を養います。

現状分析	・子どもの地域活動では、『こども会』（61.7%）、『ボランティア活動』（74.2%）、『イベント参加』（53.9%）のいずれも『参加なし』との回答が5割以上となっています。 ・平成27年に交野市で実施した「まち・ひと・しごと創生市民アンケート調査」では、「地域を担う子どもの育成において力を入れるべき取り組み」について、『体験活動や交流により、豊かな人間を育む』（59.3%）との回答が、『子どもが安全に遊べる場や防犯体制』（60.9%）に次いで2番目に多くなっています。
主な意見	・「子ども時代に、親しみ夢中になったことを生涯を通して楽しんで過ごせるまちになってほしい」（市民アンケート） ・「子どもを中心とした活動を行ってほしい」（市民アンケート）
今後の方向性	子どもたちの地域における体験学習機会の促進と積極的な情報発信により、機会の創出に努めます。一定の役割（育成）が果たせた事業については自主、自立を促し後方支援を行います。また、生涯学習推進部が所管する施設とその管理者にあたる指定管理者の有効活用により、柔軟に場を提供します。

事業名	内容	所管	備考
文化祭の開催【再掲】 （生涯学習フェスティバル）	「未来につなごう交野の文化」を継続テーマとし、多くの市民に交野の文化芸術活動の継承をはかる（重点）若者や現役世代が参加しやすいフェスティバルをめざす	生涯学習担当	重点
市民スポーツデーの開催【再掲】	秋季に市内で各種スポーツに親しむ機会を提供（重点）子どもから高齢者までの幅広い市民が参加しやすい実施形態をめざす	生涯学習担当	重点
体育教室の運営【再掲】	体育教室の実施（重点）若者や現役世代が参加しやすい実施形態をめざす	生涯学習担当	重点
文化教室の運営【再掲】	文化教室及び生涯学習講座の実施（重点）若者や現役世代が参加しやすい実施形態をめざす	生涯学習担当	重点
成人式	新成人の門出を祝うとともに、社会的な自立と自覚を促す	生涯学習担当	既存
青少年活動の充実	団体活動を通じて、青少年の豊かな情操を育成するために事業の実施 中学生理科セミナー、少年少女発明クラブ、子どもプラン、青少年音楽団体（吹奏楽、合唱、チアリーディング）	生涯学習担当	既存
第1児童センター管理運営	子どもに健全な遊び（運動を主とする）を通じて児童の体力増進と豊かな情操を育成	生涯学習担当	既存
子どもの読書活動の推進	子どもと読書を結びつける機会を提供 学校図書館を支援、ブックスタート※など	生涯学習担当	既存
思春期における健康教育	小中学校において、命や性など講座を学校と連携し開催	健康増進担当	既存

基本方針4

自然と歴史を通じたまちの発見

交野の自然や歴史、文化に親しむことで、やすらぎや感動を得るとともに、「ふるさと交野」への誇りと愛着を育むことができるよう、交野の自然や歴史・文化資源を活用した魅力ある学習の機会や情報提供を行います。

施策目標4-1

交野の自然保護と活用

交野の豊かな自然環境を保護するための活動主体の充実をはじめ、自然環境保護活動に関する情報提供や学習機会を充実し、交野の自然を活かしたまちの活性化をはかります。

現状分析	- 過去1年間に行われた生涯学習活動のうち、「自然体験活動」との回答は2.8%であり、さらに今後希望する生涯学習活動においても、「自然体験活動」との回答は14.1%となっています。 - 交野市の将来像について、『自然環境が豊か』（63.4%）との回答が最も多く、平成2年調査（70.6%）と同様に高い割合を維持しています。
意見	「自然や農を守るボランティアに関する情報が見つからない」（市民アンケート） 「学習して得た知識を実際の自然に応用できるようにする」（ワークショップ） 「里山の保護活動に参加しやすいようなシステムを構築する」（ワークショップ）
今後の方向性	交野が持つ自然環境の保護はもちろんのこと、交野の自然を活用したまちの活性化をはかります。また、自然保護活動に関する情報提供や学習機会を充実します。

事業名	内容	所管	備考
里山保全事業の推進	里山のナラ枯れをおさえるナラ枯れ樹木伐採を3年間で実施。新たな里山保全ボランティアの育成	環境担当	既存
交野市環境マネジメントシステムの推進	低炭素社会の実現をめざした事業の展開	環境担当	既存
交野市環境基本計画の推進	市民・事業者との共同組織によりプロジェクトの推進	環境担当	既存
ごみ減量化・リサイクル推進に係る市民活動の支援	ごみ減量・リサイクル推進に対する市民意識の向上や良好な生活環境づくりの協議・実践	環境担当	既存
リバーフェニックス事業	流域の地域を巻き込んだ天野川や支川の清掃活動	環境担当	既存
農とのふれあい機会の提供等	農とのふれあいツアー、農業まつりの開催支援など	農政担当	既存
かたのツーリズム	交野山などの自然環境にふれる様々な夜景と夜空を観覧。出会いの場などをつくる	地域振興担当	既存
緑とリサイクル事業	剪定枝・伐採樹木の堆肥化	都市整備担当	既存
市民参加による緑化事業の推進	美化緑化推進団体支援	都市整備担当	既存

施策目標4-2

交野の歴史文化の発見と発信

交野の歴史文化資源について、市の内外に発信するとともに、市民自身が魅力を再発見し、交野への愛着・誇りを育むことができる学習機会を提供します。

分現 析状	・交野市の将来像について、『伝統や歴史を大切にするまち』（3.8%）との回答が少なくなっています。
意主 見な	・「ハイキングで交野市の名所や八景などを訪れ、説明も受けられるようにしてほしい」（市民アンケート） ・「子どもたちが交野や地域を勉強できる機会の充実」（ワークショップ）
方今 向後 性の	市民が交野市の歴史文化資源や伝統産業の魅力を再発見し、理解・関心、誇りを育むことができる学習機会の充実をはかります。また、交野市の歴史文化資源の魅力を市内外に発信します。

事業名	内容	所管	備考
文化財の普及・啓発	歴史民俗資料展示室公開や小学校への出前講座の開催	生涯学習担当	既存
埋蔵文化財発掘調査の実施	文化財を保護・活用するため文化財の発掘調査及び研究	生涯学習担当	既存
七タのふるさと振興	まちの誇れるシンボル「七タ」などを通して、交野を発信するまちづくりの実施	地域振興担当	既存

施策目標4-3

交野の文化財・伝統文化の継承

文化財の公開や学習機会の提供を通じて、文化財や伝統文化について、市民の理解・関心を育み、それらの継承につないでいきます。

分現 析状	・特に関心のある地域課題のうち、『地域の伝統行事や祭りの継承』との回答は10.3%となっています。
意主 見な	・「交野の歴史を現地で勉強できる機会を充実させる」（ワークショップ） ・「交野のわらべ歌を伝える活動を行う」（ワークショップ）
方今 向後 性の	市の特色ある伝統文化、歴史文化を次世代に継承していくため、文化財の公開や学習機会の提供を通じて、市民の文化財保護についての理解・関心を育みます。また交野の歴史を残す町並みなど、景観整備をはかります。

事業名	内容	所管	備考
文化財保存活動	文化財に対する調査研究を行い、その成果を講座などにより市民に報告（重点）文化財パトロール、機織り教室の実施	生涯学習担当	重点
文化遺産の適切な維持保全	指定文化財の適切な維持管理の実施や文化遺産の一般公開の実施	生涯学習担当	既存
景観まちづくり	良好な歴史的な景観を残したまちづくりのための取り組み	都市整備担当	既存

基本方針5 生涯を通じた文化の振興

市民が文化芸術に触れ、親しむことができる機会や情報の提供を行います。

市民が、主体的に文化芸術活動に取り組むことができるよう、活動を支援するボランティアや活動を牽引するリーダーの発掘、育成などの支援を行います。

施策目標5-1 生涯を通じた文化活動の促進

市民が、主体的に生涯を通じて文化芸術に親しむことができるよう、学習の場や情報提供の拡充をはかります。特に、青少年が文化活動に親しむことができる環境の整備を行います。

現状分析	- 市民の学習活動と今後の学習内容については、『趣味的なもの』、『教養的なもの』との回答が多くなっています。 - 中学生以下の子どもでは、『芸術』への参加頻度が『読書』、『学習塾』、『習い事』との回答に比べ少なくなっています。 - 文化団体の会員の高齢化がすすみ、新たな会員の確保も難しくなっています。
意見	「活動内容を充実させてほしい」（市民アンケート） 「若者が活動しやすい環境を作るべき」（ワークショップ） 「興味があって入ってきても、子育てなどが忙しく、長続きしない」（ワークショップ）
方向性の	市民、とりわけ青少年の文化活動の活性化をはかるために、個人の学習ニーズを踏まえ、既存事業を見直し、学習とその成果発表の場を充実させ、情報提供のあり方を工夫します。

事業名	内容	所管	備考
文化祭の開催【再掲】 （生涯学習フェスティバル）	「未来につなごう交野の文化」を継続テーマとし、多くの市民に交野の文化芸術活動の継承をはかる （重点）若者や現役世代が参加しやすいフェスティバルをめざす	生涯学習担当	重点
文化教室の運営【再掲】	文化教室及び生涯学習講座の実施 （重点）若者や現役世代が参加しやすい実施形態をめざす	生涯学習担当	重点
社会教育関係団体との連携	文化連盟、PTA、女性団体などと連携し、社会教育関係事業の充実をはかる	生涯学習担当	既存
生涯学習機会の充実	生涯学習大学セミナーの開催・おおさかふみんネットなどの共催及び指定管理者の自主事業	生涯学習担当	既存

施策目標5-2

文化芸術に触れ、親しむ機会の提供

文化芸術活動の成果の発表や公開を通して、市民が文化芸術に触れ、親しめる機会の充実をはかります。

現状分析	・地域・ボランティア・老人クラブなどへの参加経験は、「自治会・町内会」(52.5%)、「PTA」(25.4%)、「音楽・読書・園芸・陶芸などの文化サークル」(15.0%)の順に多くなっています。
主な意見	・「若者に文化祭に来てもらう工夫をする」(ワークショップ) ・「青少年の音楽サークルの支援の継続」(ワークショップ) ・「学校(校区)を一つのコミュニティとして、結びつきを広げる、文化活動をアピールする」(ワークショップ)
今後の方向性	文化芸術活動の成果を日常的に発表・公開できる機会を提供し、市民の活動意欲の向上をはかり、生涯を通じて文化芸術に触れ、親しむ機会の充実をはかります。

事業名	内容	所管	備考
文化祭の開催【再掲】 (生涯学習フェスティバル)	「未来につなごう交野の文化」を継続テーマとし、多くの市民に交野の文化芸術活動の継承をはかる (重点) 若者や現役世代が参加しやすいフェスティバルをめざす	生涯学習担当	重点



基本方針 6

生涯を通じたスポーツの振興

市民が心も体も健康で豊かな暮らしを送ることができるよう生涯スポーツの機会や情報提供を行います。

市民の健康づくりに関するテーマの学習機会の充実をはかります。

市民のスポーツ活動のための場所や設備・備品などを支援します。

施策目標 6-1

生涯を通じたスポーツ活動の促進

より多くの人が参加できる機会や場づくりを積極的に行い、生涯を通じたスポーツ活動を促進します。

現状分析	・総合体育施設（いきいきランド）は、団体・個人スポーツを問わず、球技、水泳、フィットネスなど、市民スポーツの振興に貢献しています。 ・チームスポーツと個人スポーツの活動参加意向では、『今後始める予定がある』との回答は個人スポーツ志向がチームスポーツに比べ屋内・屋外ともに強く、個人活動へのニーズが顕著になっています。 ・団体活動への参加者は、減少しています。
主な意見	・「活動者の年齢層は高く、若者が参加しやすい状況改善が必要」（市民アンケート） ・「単独でアウトドアを楽しむことが多い」（市民アンケート） ・「活動場所や内容などのPRが必要」（ワークショップ）
今後の方向性	活動場所、内容、年齢、実施形態などを工夫し、効果的な情報提供を行うことで、多くの市民が参加できる場づくりや、多様な市民ニーズに対応しながら、市民の生涯を通じたスポーツ活動を促進します。

事業名	内容	所管	備考
市民スポーツデーの開催【再掲】	秋季に市内で各種スポーツに親しむ機会を提供（重点）子どもから高齢者までの幅広い市民が参加しやすい実施形態をめざす	生涯学習担当	重点
体育教室の運営【再掲】	体育教室の実施（重点）若者や現役世代が参加しやすい実施形態をめざす	生涯学習担当	重点
体育施設等の運営	総合体育施設、星田西体育施設、星の里いわふね、私部・倉治公園グラウンドなどの運営（重点）各施設の市民の個人利用を促進	生涯学習担当	重点
学校体育施設の開放事業	地域住民のスポーツ・レクリエーション活動の振興を目的とした小中学校の体育施設の開放	生涯学習担当	既存
スポーツ活動の支援	北河内や大阪府の総合体育大会の運営、市長杯などの各種スポーツ大会の活動支援	生涯学習担当	既存
大阪府障がい者スポーツ大会、京阪ブロックレクリエーション大会	障がい者一人ひとりの競技力の向上とスポーツの普及、裾野の拡大・交流をめざす	福祉担当	既存

施策目標6-2

健康寿命の延伸に向けたスポーツと健康教育

市民一人ひとりが心も体も健康で豊かな暮らしを送ることができるよう、健康づくりに関するテーマの学習機会や交流機会をはかります。

現状分析	・「スポーツに取り組む理由」では、『自分の記録や能力の向上』（6.8%）に比べ、『楽しみ・気分転換』（46.6%）や『運動不足の解消』（45.9%）が多くなっています。 ・なぜスポーツサークルなどに参加できないのかについてみると、若年層は興味や関心が低く、現役世代は時間の確保に、高齢層は体力面に課題があるとの傾向がみられます。
主な意見	・「健康に関心を持てるような施策を考えてほしい」（市民アンケート） ・「競技に対する温度差が同じ団体内でも違う」（団体アンケート） ・「若い時からスポーツに取り組める環境が必要」（ワークショップ）
今後の方向性	競技スポーツのみならず、健康を目的としたスポーツに市民が関心を持ち、取り組めるよう、各世代のニーズや課題を考慮した事業を検討します。また、健康教育の講座などを通じて、交流機会の充実をはかります。

事業名	内容	所管	備考
高齢者のライフステージとスポーツ	高齢者向けに新たなスポーツ教室の実施 ニュースポーツ*教室、ノルディックウォーキング*など	生涯学習担当	重点
子どもの体力向上プログラム	遊びを取り入れながら子どもの体力向上を目的としたプログラムの実施	生涯学習担当	重点
健康教育	健康に関する教室・講座の開催	健康増進担当	既存
健康福祉に関する啓発事業	健康福祉フェスティバルの開催	健康増進担当	既存
健康ポイント制度*	健康診断・がん検診・生活改善・健康講座参加・スポーツ参加・禁煙で健康ポイントを付与、健康ポイントと付加価値で市民の健康づくりのきっかけと推進	健康増進担当	既存
地域の健康づくり	身近な地域での元気アップ事業の実施による、介護予防の視点に立った健康づくりや地域の見守りネットワークの促進	福祉担当	既存
保健事業の推進	特定健診受診率の向上 特定保健指導の利用促進	医療保険担当	既存
わがまちウォーキング	市内にまちなかウォーキングコースを設置し距離を明示することで、歩くことを促す取り組み	都市整備担当	既存
ストレッチ体操促進	市内のウォーキングコースにある公園などに健康遊具を設置	都市整備担当	既存

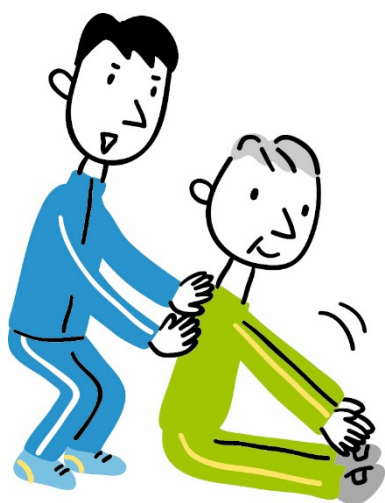
施策目標6-3

地域における生涯スポーツの振興

地域の人々が、それぞれの技術や興味、関心に応じてスポーツに取り組むことができるよう、スポーツ指導者などのスポーツを支える人材の育成に努めます。

分現 析状	・スポーツ・健康分野の団体の「団体の活動の成果の活かし方」では、他の人への指導に活かしている傾向が強くなっています。
意主 見な	・「指導会や体験会の制度化」（ワークショップ） ・「指導員の技術や指導力を充実させる」（ワークショップ） ・「指導に関してはやはり公認の指導者に教わりたい」（ワークショップ）
方今 向後 性の	多くの市民が気軽にスポーツをはじめのきっかけをつくるために、ニュースポーツなどの気軽なスポーツの指導者の育成に努めます。また、指定管理者や関係団体と連携することで、指導者向けの講習会の実施も検討し、スポーツ指導者の育成もはかります。

事業名	内容	所管	備考
地域スポーツの活性化	市民誰もが、様々なスポーツ・レクリエーションに親しめるように関係機関と連携し、地域におけるスポーツ活動の活性化及びスポーツクラブの育成をめざします。	生涯学習担当	新規
関係団体との連携	体育協会やスポーツ関係団体と連携し、各種大会などを実施	生涯学習担当	既存
スポーツ指導者の養成	スポーツ推進委員を対象に研修や講座を開催し、スポーツ指導者の養成に努める	生涯学習担当	既存



生涯スポーツの振興に向けた新たな取り組み（まとめ）

生涯を通じたスポーツの振興に向けて、市民の一人ひとりが年代や地域などに関わりなく参加できる機会や場づくりをすすめます。

そのため、既存施設における新たな取り組みや各年代のニーズに応じた新たな取り組みとともに、地域における生涯スポーツを振興します。

〇体育施設などの主な利用と新たな取り組み

施設名称	主な団体利用	主な個人利用	主な催し・教室など	新たな取り組み
総合体育施設 グラウンド 屋外ミルキーウェイ	軟式・硬式野球 ソフトボール サッカー ラグビー 幼稚園	—	市民スポーツデー 北河内・大阪府総合体育大会 各種広域スポーツ大会 各競技の大会 各競技の教室 運動会 ほか	子どもから高齢者まで 幅広い市民が 参加できる スポーツイベント
総合体育施設 メインアリーナ サブアリーナ 会議室	バレーボール インディアカ バスケットボール バウンドテニス 卓球	卓球の 一般開放	市民スポーツデー 女性・壮年レクレーション・ 気功の各種体育教室 各競技の大会 各競技の教室 ほか	高齢者向け運動 機能アップ教室 卓球・バドミントンの 個人利用
総合体育施設 プール	—	個人利用 (一般・会員)	スイミングスクール 各期短期教室 トップアスリートによるクリニック スイムフェスティバル ほか	—
総合体育施設 トレーニングルーム スタジオ	—	個人利用 (一般・会員)	キッズダンス 体力測定 健康セミナー	ミドル体操教室
星の里いわふね 体育室	卓球 バドミントン バレーボール	個人利用	市民スポーツデー ダンスエクササイズ スポーツ吹き矢 ほか	高齢者向けリズム体操 阿波踊り など
星田西体育施設 体育室	バレーボール バドミントン	個人利用	女性体育教室 フットサル教室 ほか	高齢者健康教室 スポーツ交流会
青年の家 多目的ホール	インディアカ 柔道 合気道	個人利用	市民スポーツデー 幼児・親子・子ども・ ジュニアの各種体育教室 各種武道教室 ほか	子ども体力 向上プログラム
武道館 武道場	剣道 太極拳 空手	—	市民スポーツデー 各競技の大会	女性体育教室
私部・倉治公園 グラウンド 私部公園 多目的グラウンド	軟式・硬式野球 ソフトボール サッカー	—	市民スポーツデー 各競技の大会 サッカー大会	
私部・倉治公園 テニスコート	テニス ソフトテニス	個人利用	市民スポーツデー テニス大会	—
天の川緑地 ゲートボール場	ゲートボール	—	市民スポーツデー 老人クラブ大会	—

主な施設	主な団体利用	主な個人利用	主な催し・教室など	新たな取り組み
第1児童センター 体育室兼遊戯室	バレーボール 卓球・武道 ほか	児童向け 無料開放	子ども体育教室	—
保健福祉総合センター 各研修室 弓道場	福祉団体 弓道	—	市民スポーツデー 健康福祉フェスティバル 各種健康講座 健康ウォーキング ほか	—
地域	自治会 老人クラブ 子ども会 福祉団体 ほか	元気アップ体操 ウォーキング	地域の運動会 ラジオ体操	地域スポーツ の活性化
学校開放 体育館 11校	剣道・空手道 インディアカ バレーボール	—	各競技の練習・試合	
学校開放 校庭 11校	軟式野球 ソフトボール サッカー ラグビー	—	市民スポーツデー 各競技の練習・試合	

○年代別の新たな事業と重点事業

年代別など	新たな事業と重点事業
幼児期 ～12歳	幼児・親子・子ども・ジュニアの各種体育教室 子ども体力向上プログラム、地域スポーツの活性化
青少年 13～30歳 壮年期 31～64歳	地域スポーツの活性化 体操教室、卓球・バドミントンの個人利用
高齢者 65歳～	高齢者向け運動機能アップ教室、高齢者向けリズム体操、 高齢者健康教室、阿波踊り



第5章 計画の推進体制と進捗管理

1. 生涯学習推進部による推進

生涯学習推進部は、本計画を推進するため「交野市教育大綱」や「学校教育ビジョン」との整合性をはかりながら、国や大阪府の動向も踏まえ、総合的に施策を実施します。

また、庁内や市民団体などとの連携を総合的にすすめる役割を担います。

2. 庁内の連携体制

本計画は、女性、子ども、障がいのある人、高齢者、外国人、性的少数者などを含む多様な人々の生涯学習施策を展開していくものであるため、人権、教育、福祉、文化、労働、環境など、広範な分野にわたる総合的な施策の展開が必要となります。

そのため、本市における庁内検討会議を中心に、生涯学習に関する個別事業の進捗状況について総合的かつ効果的な事業間連携をすすめます。

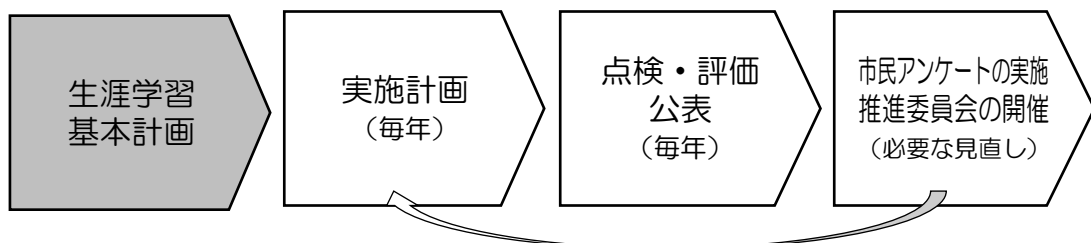
3. 市民、団体、NPO、大学などとの連携

本計画で示した施策を展開するためには、行政のみならず、生涯学習に対して主体的な取り組みを行う市民や市民団体・グループ、NPOなどの地域活動団体や大学などの教育機関の協力が必要です。そこで、これらの個人や団体、機関などに役割分担を示しつつ、積極的な連携をはかり、計画の推進に取り組みます。

4. 進捗管理

生涯学習推進部が所管する事業については、本計画を踏まえて、年度ごとの市の実施計画で示します。また、毎年、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、同事業の点検・評価を行い公表します。

計画全般における進捗状況の見極めと必要な事業の見直しに際しては、市民アンケートを実施するとともに交野市生涯学習基本計画推進委員会を開催します。なお、国や府の生涯学習などに関する施策変更の場合には、それらとの整合性をはかりつつ見直しを行います。



5. 生涯学習推進部における新規・重点事業の年次別工程表

新規事業

事業名	内容	29	30	31	32	33
相談体制の充実	交野市内の生涯学習に関する相談窓口を設けます。また、地域における生涯学習事業への支援や活動についての情報を提供し、誰もが地域で学習できるようサポートします。	□ □ 試行				
生涯学習マップの作成等	情報発信に向け、生涯学習関連施設や情報を掲載した生涯学習マップの作成やホームページの充実をはかります。					
地域スポーツの活性化	市民誰もが、様々なスポーツ・レクリエーションに親しめるように関係機関と連携し、地域におけるスポーツ活動の活性化及びスポーツクラブの育成をめざします。	準備	準備	□ □ 試行		

重点事業

事業名	重点内容	29	30	31	32	33
体育教室の運営	若者や現役世代が参加しやすい実施形態をめざします。	□ □ 試行				
文化教室の運営	若者や現役世代が参加しやすい実施形態をめざします。	□ □ 試行				
文化祭の開催 (生涯学習フェスティバル)	若者や現役世代が参加しやすいフェスティバルをめざします。	□ □ 試行				
市民スポーツデーの開催	子どもから高齢者までの幅広い市民が参加しやすい実施形態をめざします。	□ □ 試行				
日本語教室「学びの場」の開催	HPの充実などにより、教室の認知度の向上をはかります。	□ □ 試行				
地域学校協働活動	コーディネート機能を充実させた「地域学校協働本部」の設置をめざします。	準備	□ □ 試行			
家庭教育の充実	中学生を対象とした親学習講座を実施します。	□ □ 試行				
文化財保存活動	文化財パトロールや機織り教室を実施します。					
体育施設等の運営	各施設の市民の個人利用を促進します。	□ □ 試行				
高齢者のライフステージとスポーツ	ニュースポーツ教室、ノルディックウォーキングなど高齢者向けに新たなスポーツ教室を実施します。					
子どもの体力向上プログラム	遊びを取り入れながら子どもの体力向上を目的としたプログラムを実施します。					

資料編

1. 交野市生涯学習基本計画推進委員会条例及び名簿

○交野市生涯学習基本計画推進委員会条例

平成28年3月31日
条例第6号

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、交野市生涯学習基本計画推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、教育委員会の諮問に応じ、生涯学習基本計画の策定及び見直しについて、調査及び審議する。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 生涯学習に関わる関係者
- (3) 公募による市民
- (4) その他教育委員会が適当と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とし、再任されることを妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の定数の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(守秘義務)

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、生涯学習推進部において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

■交野市生涯学習基本計画推進委員会委員名簿

◎：委員長 ○：副委員長 （敬称略、順不同）

区 分	氏 名	所 属
(1) 学識経験を有する者	村田 俊明 ◎	摂南大学名誉教授 (学校経営学、学校教育学)
	藤田 美佳 ○	奈良教育大学特任准教授 (社会教育、多文化教育)
(2) 生涯学習に関わる関係者	木村 幸子	交野市体育協会
	富田 芳一	交野市文化連盟
	北村 安揮男	交野市青少年指導員会
	澤田 種治	交野市図書館協議会
	谷 泰乃	交野市 PTA 協議会
(3) 公募による市民	竹永 睦生	公募市民
	蒲田 秀佳	公募市民
(4) その他教育委員会が必要と認める者	久富 誠	交野市小・中学校校長会

２．庁内検討会議要綱

交野市生涯学習基本計画策定庁内検討会議設置要綱

（設置）

第１条 交野市における生涯学習に関する施策を総合的に推進するため、交野市生涯学習基本計画策定庁内検討会議（以下「会議」という。）を設置する。

（所掌事項）

第２条 会議の所掌事項は、次のとおりとする。

- （１）生涯学習施策に係る基本方針の策定作業に関すること。
- （２）生涯学習に係る諸施策の協議、調整及び推進作業に関すること。
- （３）その他生涯学習に必要な事項に関すること。

（組織）

第３条 会議は、以下に掲げる課等の長及び代理の職にある者をもって組織する。

教育総務室、学校管理課、指導課、社会教育課、青少年育成課、図書館、秘書・政策企画課、財務課、みんなの活力課、人権と暮らしの相談課、医療保険課、子育て支援課、こども園課、健康増進課、福祉総務課、高齢介護課、環境衛生課、環境総務課、都市計画課、土木建設課

（事務局）

第４条 事務局は社会教育課とし、会議の召集、進行管理及び庶務を行う。

（その他）

第５条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成２８年５月１日から施行する。

3. 会議経過

日時	会議名	内容
5月26日	教育委員会定例会	委員任命提案
5月30日	第1回庁内検討部会	・交野市生涯学習基本構想（平成3年4月策定）の振り返り ・交野市を取り巻く環境の確認 ・今後の日程などの確認 ・その他質疑・応答
6月10日	第2回庁内検討部会	・生涯学習の基本的考え方 ・現状・課題把握の結果について ・生涯学習と各課との連携について
6月23日	教育委員会定例会	諮問書提案
7月1日	第1回生涯学習基本計画推進委員会	・委嘱状交付 ・委員長選任 ・事務局紹介 ・交野市生涯学習基本計画について（諮問） ・交野市生涯学習基本構想（平成3年4月策定）の振り返り ・交野市を取り巻く環境の変化の把握 ・交野市の各事業の現状の確認 ・アンケート調査 ・今後の予定
7月～8月	市民アンケート実施 団体アンケート実施	
8月18日	第3回庁内検討部会	・アンケートなど実施結果について ・骨子案（将来像・基本方針）の検討 ・今後の予定
8月25日	総合教育会議	
9月2日	第2回生涯学習基本計画推進委員会	・前回の議事録の確認について ・アンケートなど実施結果について ・骨子案（将来像・基本方針）の検討 ・今後の予定
9月9日	ワークショップの実施	
10月7日	第3回生涯学習基本計画推進委員会	・前回の議事録の確認について ・ワークショップの結果について ・草案の検討について ・その他
10月28日	第4回生涯学習基本計画推進委員会	・前回の議事録の確認について ・素案の検討について ・その他

日時	会議名	内容
12月2日	第5回生涯学習基本 計画推進委員会	・前回の議事録の確認について ・素案の検討について ・その他
12月中旬	教育委員会協議会	パブリックコメントの実施報告
1月20日 ～ 2月20日	パブリックコメントの実施	
3月3日	第6回生涯学習基本 計画推進委員会	・パブリックコメントの報告・回答について ・案の検討について ・その他
3月10日	答申書の提出	
3月24日	教育委員会定例会 教育委員会協議会	・計画の提案・承認 ・パブリックコメントの実施結果

4. 交野市文化連盟・交野市体育協会団体リスト

交野市文化連盟団体リスト 発表団体（平成28年度）

	団 体 名	主な活動内容	主な活動場所
1	交野市詩吟研究会（翠川会）	詩歌の詩吟を学び、詩吟大会の出演や施設訪問	青年の家、武道館 星田山手自治会館など
2	関西吟詩文化協会交野支部	詩吟の崇高なる精神・質実剛健なる気性を学ぶ	青年の家
3	交野交謡会	能の謡や仕舞について練習や発表会	私部会館、武道館 青年の家
4	佳彰会（民謡三味線）	三味線（藤本流）演奏と民謡を歌う	武道館、青年の家
5	寿美典福会（日本舞踊）	花柳流古典舞踊の研修	青年の家 ホーム明星など
6	寿幸会（民踊舞踊）	民謡・邦楽・古典など舞踊の練習や発表会	青年の家 東香里自治会
7	交野ギター・マンドリンオーケストラ	ギター・マンドリンの練習・合奏会	青年の家
8	交野着物着付同好会 A	着物・浴衣の着付け講習や研修	武道館
9	和装技術研究会（着物着付け）	着物・浴衣の着付け講習や研修	武道館、幾野集会所
10	美弥祥会（民謡）	日本民謡の研究・発表	会員宅
11	交野社交ダンス同好会	社交ダンスの練習とダンスパーティ開催	星田出張所
12	交野壮年童謡愛唱会	童謡を腹式呼吸式による学習（女性のみ）	青年の家
13	福寿扇会	日本舞踊の稽古・発表会	青年の家
14	東山流交野吟詠会	東山流詩吟の稽古・発表会	武道館
15	コール・ボコ	女性合唱団で、指導者のもと練習や発表会	青年の家
16	交野シティフィルハーモニック	交野の音楽文化の向上を目的に交響曲などの練習や演奏会	青年の家
17	アンサンブルボピー	歌やコーラスを指導者による発声法などが学ぶ教室	青年の家
18	アンサンブルかたすい	吹奏楽団で、オリジナル曲などの練習や演奏会	青年の家
19	交野ジャズ・クリエーション	ジャズ愛好者でアマチュアバンド編成	青年の家
20	宮崎バレエスタジオ	クラシックバレエを愛する仲間が集い練習や発表会	市内宮崎バレエスタジオ
21	藤が尾カラオケ同好会	カラオケのレッスン及び発表会	藤が尾会館
22	交野ハワイアン・フラ	フラダンスの習得を目的に練習や発表会	青年の家
23	アンサンブル・アニマート	ピアノの演奏技術向上目的に練習や発表会	青年の家
24	N I S I 歌謡教室	カラオケのレッスン及び発表会	青年の家、星田会館
25	大阪民謡 ふじ美会	民謡及び新舞踊の練習や発表会	ゆうゆうセンター
26	あいあいサークル	ダンスのレッスンや発表会	青年の家
27	ヴォーチェアンジェラ	リコーダーのアンサンブルで練習や演奏会	青年の家
28	交泉会	風張風日本舞踊などの発表会	発表会会場
29	すずらん会	ダンス指導者による社交ダンスのレッスンなど	交野会館
30	アンサンブルピアかたの	コーラスのレッスンや発表会	青年の家

交野市文化連盟団体リスト 展示団体（平成28年度）

	団 体 名	主な活動内容	主な活動場所
1	交野古文化同好会	定期的な歴史健康ウォーク、勉強会による交野の歴史学習	青年の家など
2	交野市茶華道協会	会員による生け花展やお茶会の実施による茶華道の普及	青年の家など
3	交野市園芸会	園芸の研究を目的に年2回の展示会と園芸先進地への研修会	青年の家
4	交樹会（水墨画）	月1回の例会による研鑽や、各種展示会への出展による水墨画の研究	武道館
5	交野俳句会	定例での句会や勉強会、句会報の発行による俳句の勉強	青年の家など
6	交野洋画同好会	会員各自技術の向上をめざし、個性豊かな作品づくりに取り組み、年4回の展覧会などの実施	青年の家
7	交野市書道同好会	作品発表・鑑賞・指導も行うことで書法の研究	青年の家
8	交野陶芸研究会	展示会への出展や、研修会を実施しながら、美と実用を兼ね備えた陶芸作品を創出	青年の家など
9	染花フランボワーズ	植物を観察し、白布の素材を選び、思いの色を染め、コテで表情を描き立体植物作品を制作	青年の家
10	（福祉）豊年福祉会明星	施設の入居者などが様々なクラブ活動を通じ、作品づくりし、日常生活の活性化とリハビリを実現	豊年福祉会「明星」各施設
11	パステル画同好会	パステル画の制作とロビー展での発表、野外での写生、絵画展への参加	青年の家
12	交野押し花同好会	近辺に咲いている植物を採集して、押し花作品の制作や研究	青年の家
13	大阪友の会	衣食住に関する勉強会やバザーを通じ、よい家庭からよい社会を創出	青年の家
14	交野水彩画会	テーマごとの写生会や展示会の実施を通じ、「絵を描く喜び」を情操	青年の家
15	かたの写真同好会	屋外での撮影会や写真展を実施し、情操を育む	青年の家
16	表装同好会	掛け軸などの伝統表装から創作表装まで幅広く作品の制作など	青年の家
17	交野ステンドグラス同好会	ステンドグラス作品の制作、展示	青年の家
18	交野男のグルメ同好会	会員が献立から食材購入まで行う料理作り	ゆうゆうセンター
19	交野学生書道会	小中学生の文字を書く能力を養い、健全な心身育成に努める	青年の家
20	交野陶芸協会	陶芸作品の制作から研修をかねて各地の陶芸村を見学	星の里いわふね
21	つまみ絵あかね会	伝統工芸であるつまみ手法の創作や展示	青年の家
22	（福祉）美郷会・美来	特別養護老人ホームなどの入居者や利用者による作品作り	特別養護老人ホーム「未来」など
23	（福祉）きんもくせい	ケアハウス施設などの入居者や利用者による作品作り	ケアハウス「きんもくせい」
24	交野デジカメ同好会	カメラを操る技術を学び、各会員が写心を撮る撮影	青年の家

交野市体育協会団体リスト (平成 28 年度)

	団 体 名	主な活動内容	主な活動場所
1	軟式野球連盟	春季大会、夏季大会、市長杯大会、支部長杯、チャンピオントーナメント	私部公園、いきいきランド 交野高校、倉治公園
2	バレーボール協会	春季市長杯、パナソニック杯、おりひめ杯、審判講習会	市内小学校、いきいきランド 星田西体育施設
3	剣道連盟	定例稽古会、新年稽古会、級審査会、会長杯	市内小学校、武道館
4	バドミントン連盟	総会、北河内・大阪府総合体育大会	いきいきランド
5	サッカー連盟	大阪府知事杯、合宿、交流大会、スポーツ少年団サッカー大会	私部公園、市内小中学校
6	卓球連盟	関西学生リーグ戦、市長杯、定期練習	いきいきランド
7	空手道連盟	近畿大会、大阪府大会、交野大会、昇段・級審査会、合宿・強化練習	武道館、市内小学校、いきいきランド
8	柔道連盟	大阪府大会、三島・北河内地区大会親善試合、合同練習	青年の家
9	ソフトボール協会	交野市長杯、春季リーグ戦、秋季リーグ戦、体育協会会長杯	いきいきランド、私部公園 倉治公園、市内小学校
10	体操連盟	近畿総会、研修会 OSAKA体操フェスティバル	武道館、青年の家
11	硬式野球連盟	関西大会、強化合宿、体験練習会 入部式、卒部式	私部公園、倉治公園
12	大阪合気会交野道場	合宿、合同練習、演武会、定例稽古	青年の家
13	相撲連盟	定例稽古、市長杯わんぱく相撲大会	武道館前相撲場
14	インディアカ協会	市長杯、体育協会会長杯、協会杯 定例練習会	小学校体育館、青年の家 いきいきランド
15	ゲートボール協会	市長杯、審判員大会、地区対抗大会 月例大会	天の川緑地ゲートボール場
16	太極拳協会	全日本大会、近畿大会、大阪府大会、 段位検定講習会、指導員認定会	いきいきランド、武道館、 星田西体育施設
17	弓技連盟 (弓道部)	理事長杯、交流射会、百射会、納射会 初射会、道場整備	ゆうゆうセンター
	弓技連盟 (アーチェリー部)	総会、合宿、納射会、初射会	交野自立センター多目的広 場
18	グラウンド・ゴルフ協会	月例会、市長杯、大阪府会長杯、 交流大会、指導員研修会	私部公園
19	ラグビーフットボール協会	大阪ラグビーカーニバル、北河内大会、合宿、 関西クラブトップリーグ	市内中学校、いきいきランド
20	バウンドテニス協会	全日本大会、近畿大会、大阪府大会、 交流大会	いきいきランド
21	バスケットボール連盟	チャレンジカップ、サマーカップ、 おっちゃん杯、練習試合	いきいきランド
22	テニス協会	大阪大会、北大阪大会、市長杯、 親睦会、教室	私部公園
23	ソフトテニス連盟	全日本大会、西日本大会、近畿大会 市長杯、合宿	私部公園
24	古武道古傳居合術交野道場	初抜き、奉納演武	青年の家
25	ゴルフ協会	練習、総会	交野カントリークラブ

5. 交野市生涯学習基本構想（平成3年4月策定）の概要

交野市生涯学習基本構想の目標と課題

交野市総合計画が目指した理想的都市像を実現するため、以下の通り5つの「人づくり」を設定した。

- {

やすらぎのまち—かたの
おらがまち—かたの
おもいやりのまち—かたの
まなびのまち—かたの
うるおいのまち—かたの

<自然環境の保全、防犯・防災など安全・快適な住環境の充実> を実現する人づくり
<子どもから成人、高齢者までの学習・教育環境の充実> を実現する人づくり
<人権や福祉環境の充実> を実現する人づくり
<活力ある経済活動、交通・生活基盤の充実> を実現する人づくり
<活発な市民交流、文化、スポーツ環境の充実> を実現する人づくり

また、この5つの「人づくり」を具現化するため、以下の目標を設定した。

- {

宇宙や地球環境を大切にまもるひとづくり
交野の自然を大切にまもるひとづくり
交野の歴史と文化を大切に作るひとづくり
おもいやりのあるひとづくり
国際社会で貢献できるひとづくり
心身ともに健康なひとづくり
学びの心をもつひとづくり
生きがいを自ら求めるひとづくり

■ 目的・目標に基づく学習課題及び施策

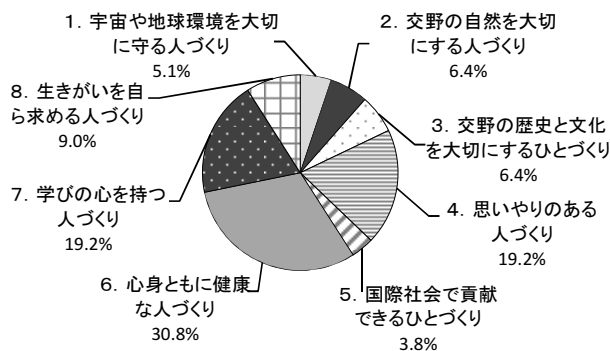
目 的	目 標	学 習 課 題	施 策
やすらぎのまち— かたのを実現する ひとづくり	宇宙や地球環境を大切に まもるひとづくり	地球環境学習	リサイクル学習、自然科学学習
		宇宙・星座学習	星空ウォッチング
	交野の自然を大切にまも るひとづくり	ふるさと学習（自然関 係）	交野学の充実
		自然とのふれあい学習	桜についての学習
おらがまち—かた のを実現するひと づくり	交野の歴史と文化を大切 にするひとづくり	ふるさと学習（歴史・ 文化関係）	地域活動参加、ふるさとの味
		歴史学習	交野の歴史学習、史跡見学会
		文化学習	伝統と文化の継承
おもいやりのまち —かたのを実現す るひとづくり	おもいやりのある ひとづくり	人権学習	機会、場の提供、生涯学習相談員
		ふれあい学習（親子・ 他人・世代）	老人大学、人間関係づくり
		ボランティア学習	情報提供
		親学習、しつけの学習	
まなびのまち—か たのを実現するひ とづくり	国際社会で貢献できる ひとづくり	国際理解・世界平和の ための学習	姉妹都市等との国際交流事業 国際文化学習
		スポーツ学習	施設、設備、指導者の確保
		心の学習	専門家の確保
		健康増進学習	市民プールの建設
うるおいのまち— かたのを実現する ひとづくり	心身ともに健康な ひとづくり	幼少年しつけ学習	年齢別健康講座と実技指導
		教養のための学習	図書館、センターの建設
		趣味のための学習	情報提供、サークル活動の推奨
		情報化社会の学習	生涯学習推進員や生涯学習指導員の 配置、消費者学習
	学びの心をもつ ひとづくり	各分野の専門学習	
		いきがい学習	社会教育講座の充実
		労働と職業のための学 習	職業技能施設の設立 リカレント*学習、資格取得講習会 職業経験者の活用
		人生学の学習	近隣大学、 シルバー人材センターの活用

6. 「交野市生涯学習基本構想」（平成3年策定）の現状と課題

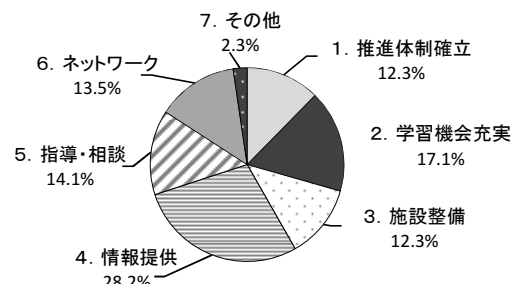
「交野市生涯学習基本構想」の8つの目標について、「平成28年度 実施計画書」の中に記されている生涯学習関連事業をあてはめ、庁内検討会議において「現状・課題把握シート」で検証した結果を以下に示します。

（1）「現状・課題把握シート」から見た現状と課題（全75事業）

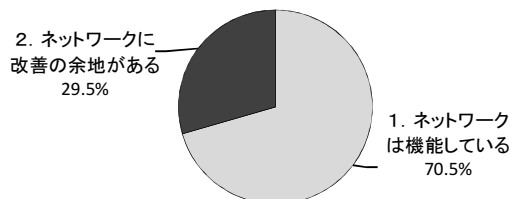
■目標別の事業数の割合



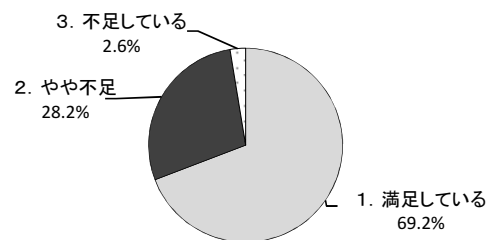
■行政の果たす役割



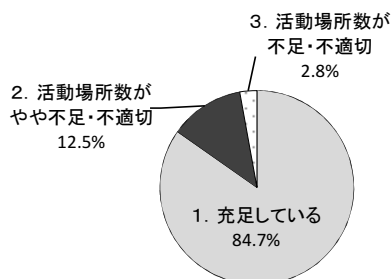
■「ネットワーク」に関する現状



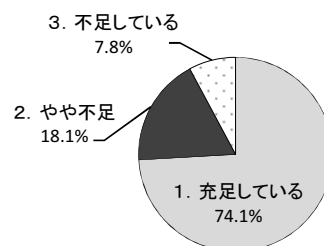
■「企画力」に関する現状



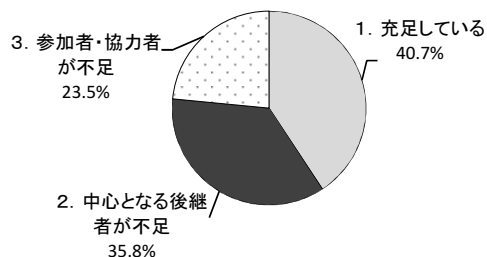
■「施設・設備」に関する現状



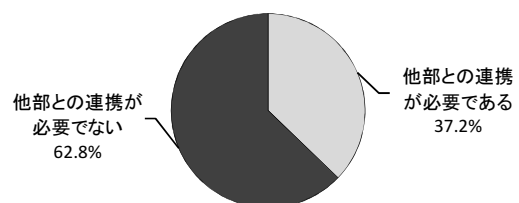
■「運営資金」に関する現状



■「人材」に関する現状



■他部との連携の必要性について



（２）生涯学習基本構想にあてはめた現在の主な事業（基本目標別）

目標１ 宇宙や地球環境を大切にまもるひとづくり

主な事業（４事業）

- ・交野市環境マネジメントシステムの推進
- ・交野市環境基本計画の推進
- ・環境保全の啓発
- ・ごみ減量化・リサイクル推進に係る市民活動の支援

○環境啓発事業において、市全体における環境保全意識の向上をはかっています。また、ごみ減量化・リサイクル推進に係る市民活動との協働のもと、良好な生活環境づくりに対する協議・実践に取り組んでいます。

目標２ 交野の自然を大切にまもるひとづくり

主な事業（５事業）

- ・里山保全事業の推進
- ・緑とリサイクル事業
- ・農とのふれあい機会の提供等
- ・景観まちづくり
- ・市民参加による緑化事業の推進

○「農とのふれあい機会の提供」などにおいて、自然環境や夜景・夜空、農業などの交野の観光・地域資源を活かした交流機会を提供しています。また、里山ボランティアの育成・活用による里山保全事業や、市民参加による緑化事業の推進など、市民の力を活かした環境保全事業を実施しています。

目標３ 交野の歴史と文化を大切に作るひとづくり

主な事業（６事業）

- ・七夕のふるさと振興
- ・市民文化財講座
- ・教育文化会館活動事業
- ・文化財の一般公開
- ・河内木綿の機織り教室
- ・倉治図書館地域資料コーナー

○伝統産業であった河内木綿の機織り教室や、市内の歴史・文化について講師を招いた講演会を実施するなど、交野の歴史・文化を学ぶ機会を提供しています。
○国登録文化財である教育文化会館では、交野の文化財の展示などを行っていますが、新たな展示解説ボランティアの育成や施設の魅力を十分に活かした活動ができていないなどの課題が出ています。

目標4 おもいやりのあるひとづくり

主な事業（16事業）

- ・人権啓発活動
- ・平和と人権を守る都市への取り組み
- ・理解促進研修・啓発事業
- ・あいさつ運動
- ・避難行動要支援者支援事業
- ・拠点施設の整備充実
- ・小地域ネットワーク活動
- ・福祉団体との連携と活動支援
- ・児童と家庭への支援の充実
- ・地域子育て支援拠点事業
- ・わくわく子育て教室
- ・移住・定住促進事業（地方創生）
- ・市民活動団体等情報登録制度
- ・市民活動ルーム「わいわいネット」の運営支援
- ・自治組織の充実
- ・まちづくり委員会※に対する活動支援

○子どもや障がい者などに対する人権への理解促進・啓発事業を実施し、市全体における人権・福祉に対する意識の向上をはかっています。また、「わくわく子育て教室」などにおいて、子育てに関する知識や体験を通じた学びの機会を提供しています。

○市民活動団体ネットワーク「わいわいネット」においては、市民活動団体、ボランティア団体、NPO などや、これから活動したいと考えている市民のつながり・交流の場を提供しています。

目標5 国際社会で貢献できるひとづくり

主な事業（2事業）

- ・国際交流事業
- ・日本語教室「学びの場」の開催

○カナダのコリングウッド市（姉妹都市）との交流事業を実施し、国際交流の機会を通じて、市民全体における国際理解の向上をはかっています。

○外国人などが日本語を学べる機会をつくるために、日本語指導に意欲のある市民の方が中心となって、日本語教室「学びの場」を展開しています。

目標6 心身ともに健康なひとづくり

主な事業（21 事業）

- ・マラソン大会の開催
- ・健康教育・健康福祉に関する啓発事業
- ・乳幼児健康教育・相談事業
- ・思春期における健康教育
- ・保健事業の推進
- ・市民スポーツデーの開催
- ・学校体育館・校庭開放事業
- ・体育施設等の運営
- ・青少年指導員活動事業
- ・体育協会活動支援事業
- ・チアリーディングクラブ
- ・家庭教育学級の開催
- ・家庭学級友の会の支援
- ・子ども会育成連絡協議会事業
- ・子どもプラン
- ・子どもの安全見守り
- ・こども110番
- ・放課後子ども教室
- ・児童センターの運営
- ・体育教室の運営
- ・指定管理者の自主事業

○体育教室の開催や、市民スポーツデー、学校体育館・校庭開放など、スポーツに取り組む機会・場を提供し、子どもから高齢者までのスポーツ振興をはかっています。

○健康・保健に関する学校教育、教室・講座などの学びの機会を提供しています。また、関係団体との連携による「子どもプラン」の実施など、交野の自然資源などを活かした子どもたちの学びの機会を提供しています。また、「家庭教育学級」講座の実施や「家庭教育学級友の会」活動の支援により家庭教育の充実をはかっています。



目標7 学びの心をもつひとづくり

主な事業（14 事業）

- ・ 消費者相談
- ・ 消費生活情報提供
- ・ 消費者団体活動の支援
- ・ 生涯学習大学
- ・ 文化連盟活動支援事業
- ・ 市民文化祭
- ・ ジュニア吹奏楽団
- ・ 少年少女合唱団
- ・ 中学生理科セミナー
- ・ 少年少女発明クラブ
- ・ 図書館・図書室の運営
- ・ 子どもの読書活動の推進
- ・ 文化教室等の運営
- ・ 指定管理者の自主事業

- 摂南大学との包括的連携協定に基づく「生涯学習大学」の実施や文化教室の運営などにより様々な分野の学びの機会を提供しています。また市民文化祭では、市民の日頃の学びの成果を発表する場の提供を行っています。
- 倉治図書館、青年の家図書室、星田コミュニティーセンター図書室、第1児童センター図書室、移動図書館などの地域の図書館では、子どもをはじめ全ての市民の読書活動・環境の充実をはかっています。
- 中学生理科セミナーや少年少女発明クラブなど、子どもたちの自由な発想や創造性を育む学びの機会を提供しています。

目標8 生きがいを自ら求めるひとづくり

主な事業（7 事業）

- ・ 就労支援事業
- ・ ひとり親家庭の自立支援
- ・ いきがい活動支援通所事業
- ・ シルバー人材センター事業支援
- ・ 自発的活動支援事業
- ・ 老人福祉大会の開催
- ・ 老人クラブ活動支援

- 高齢者や障がい者などの活動支援を行い、生きがいや地域社会での活躍につなげています。また、就労支援を必要とする人への資格取得やスキルアップの支援などの学びの機会を提供しています。

7. 用語解説

	用 語	解 説	ページ
あ 行	生きる力	知・徳・体の調和をはかりながら、それらを統一して、自らの行動を選択し、決定し、そして実行することができる力。	2
	エヌ・ピー・オー N P O	民間非営利組織。政府や私企業とは独立した存在として、地域の諸課題の解決などを目的に公共的・社会的な公益活動を行う組織・団体。	46
	おおさかふみんネット	大阪府と府内市町村が実施する生涯学習連携事業（広域講座）。府内を8ブロックに分け、ブロックごとに各自治体が公開講座や見学会などを行っている。	6
か 行	かたのサイズ	「交野市第4次総合計画」の基本理念「あじわい・なりわい・にぎわい“みんな活”でわいわいと“かたのサイズ”なまち暮らし」における、自らをよく知り、味わい、活動し、楽しみながら、一人ひとりの“サイズ”がつながってまちを形づくるという考え方。	2
	学校支援地域本部	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てるために、学校の求めに応じて、学校の教育活動などの支援を行う。	52
	キャリア教育	一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。	54
	協働	市民・市民団体、事業者及び市がその自主的な行動のもとに、互いの特性を尊重し認め合い、企画立案、実施、評価及び改善の全ての過程またはそれぞれの過程において、話し合いに基づいて役割を分担し、共通の目的である公共的な課題の解決のために力を合わせてまちづくりに取り組むこと。	4
	グローバル人材	世界的な競争と共生がすすむ現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間。	24
	健康ポイント制度	個人の運動や食生活の改善、健康診断の受診、健康診断の結果などに応じて特典が受けられる仕組み。健康保険組合や自治体ですすめられており、内容によってポイントを受け取ったり、体脂肪計などがもらえたりする制度。	61
	コンパクトシティ	商業地や行政サービスといった、生活上必要な機能を一定範囲に集め、効率的な生活・行政をめざす都市政策。	7
さ 行	小地域ネットワーク活動	地域住民の参加と協力による支え合い・助け合いの活動が、市区町村社会福祉協議会の内部組織として概ね小学校区ごとに設置されている。	51
	セーフティネット	「安全網」と訳され、網の目のように救済策を張ることで、全体に対して安全や安心を提供する仕組み。	4
た 行	地域学校協働活動	コーディネート機能の強化や幅広い層の地域住民の参画など、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの成長を支えていく取り組み。	4
	地域学校協働本部	地域と学校が連携・協働して、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関など、幅広い地域住民などの参画により、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動。	4
	知の循環型社会	各個人が、自らのニーズに基づき学習した成果を社会に還元し、社会全体の持続的な教育力の向上に貢献する社会。	1
	地方創生	平成 26 年 9 月に発足した第二次安倍改造内閣が掲げる重点政策の一つで、地方の人口減少に歯止めをかけ、首都圏への人口集中を是正し、地方の自律的な活性化を促すための取り組み。	3

	用 語	解 説	ページ
た 行	トップスポーツ	住民が楽しみや健康の保持増進などのために行う地域スポーツや学校の体育に関する活動に対して、国際大会などの世界の頂点をめざすスポーツ。	5
な 行	ニュースポーツ	スポーツの原点である「楽しさの追求」を理念に掲げて考案され、柔軟性のある競技規則と適度な運動量を備え、年齢や性別によるハンディが少なく、特別なトレーニングをしなくても簡易な用具を使いプレイを楽しめるスポーツをいう。	61
	ノルディックウォーキング	2本のポール（ストック）を使って歩行運動を補助し、運動効果をより増強する運動。	61
は 行	避難行動要支援者	高齢者、障がい者、乳幼児、その他の特に配慮を要する人を「要配慮者」といい、そのうち、災害が発生し、または災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な者で、その円滑かつ迅速な避難の確保をはかるため特に支援を要するものを「避難行動要支援者」という。	50
	ブックスタート	市区町村自治体が行う 0 歳児健診などの機会に、「絵本」と「赤ちゃん絵本を楽しむ体験」をプレゼントする活動。	55
ま 行	まちづくり委員会	自治会などの活動を基本に、様々な市民活動やボランティア活動との連携により地域における市民主体のまちづくりを企画、調整、実践する組織。	78
	みんな活	「交野市第4次総合計画」の基本理念「あじわい・なりわい・にぎわい“みんな活”でわいわいと“かたのサイズ”なまち暮らし」における、行政の力だけではなく、市民一人ひとりの個性や多様性が尊重され、市民が地域の担い手として活躍できること、またそのつながりによる力を活用していくことを重要とする考え方。	2
ら 行	ライフステージ	人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期などのそれぞれの段階。	2
	リカレント学習	経済協力開発機構（OECD）が提唱する生涯教育構想。社会人が必要に応じて学校へ戻って再教育を受ける、循環・反復型の教育体制。	75
	レクリエーション	勉強や仕事の合間の余暇を利用して自発的に個人または集団で行う活動や経験で、ゆとりと楽しみの創造を目標とするもの。	1
わ 行	わいわいネット	これから活動したいと考えている人、活動を知りたい人たちのつながりや交流の場となるために、市民活動団体の情報提供や各種イベントの開催などを行っている。	46
	ワークショップ	講師から一方的に知識を伝達するだけの講義やセミナーと異なり、参加者自らが積極的な意見交換や協働体験を通じて、実践的な知識・技術を学びとる参加体験型グループ学習。	10

交野市生涯学習基本計画

発行 平成 29（2017）年 3 月

発行者 交野市教育委員会社会教育課
〒576-0052 大阪府交野市私部 2 丁目 29 番地 1 号
電話：072-892-7721（音声案内 1） F A X：072-892-1700

